

岡崎 2 0 2 0 ビジョン

平成 1 9 年 3 月

岡崎商工会議所

発刊の言葉

岡崎商工会議所 会頭 伊藤公正

21 世紀に入り世界の市場経済は、従来の日本を含めた欧米中心の経済から BRICS といわれる新興国の台頭により大きく変貌しようとしています。我が国政府も「官から民へ」、「中央から地方へ」と大きな変革をし、日本経済の活性化に取り組もうとしています。

こうした中、我がまち岡崎は、古くから三河地域の政治、経済の中心として栄えてきたにもかかわらず、近年、隣接する豊田市、安城市、西尾市、刈谷市等へ産業立地・集積が進み、経済面での中枢性が弱まりつつあります。再び、この岡崎が三河の中心に復活する為に、産業界として13年後の2020年に向けてなすべき事を次の4つの項目にまとめました。

1. ものづくり産業への新たな挑戦基地としてのテクノパーク（工業団地）の建設と、地理的な好条件を備えた岡崎に経済特区を設け企業誘致を図る。
2. 矢作川堤防を利用した「スーパー堤防道路」をつくり、豊田ー西尾ー碧南に至る南北道路を整備する。これにより岡崎が南北の中心に位置する。
3. 東岡崎駅近接地に産業交流拠点の建設と、都市型ホテルの誘致を行う。
4. 江戸時代の「二十七曲がり」を整備し、観光文化都市としての核をつくる。

以上4大プロジェクトを実現させる為には、行政の全面的なバックアップが不可欠です。再び三河の中心としての活力を取り戻す為にも、会員は無論のこと、全市を上げて取り組んで参りたいと思いますのでご協力をお願い申し上げます。

平成19年3月

発刊の言葉

岡崎2020ビジョン策定委員長 服部良男

今、産業社会を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。温暖化対策など環境問題は地球規模での真剣な取り組みを求められており、少子高齢化も着実に進行してまいります。従来のわが国経済発展の原動力となってきた大量生産・大量販売（消費）のビジネスモデルや、効率優先の安易なスクラップ・アンド・ビルドは受け入れられなくなるものと思われ、企業も持続可能な社会発展の中核を担う行動が求められます。2020年に向けての私たちの使命は、製品やサービスに対する従来に倍する知恵の投入で産出の質を高め、今あるものを十分活用しつつ、心を満たす仕組みづくりを地域で具現化することではないかと思われます。この岡崎2020ビジョンの策定を契機として、地域の特性や資源をより深く活用し、市民、大学、産業、行政が密に連携することにより「豊かで、住みよい岡崎」の実現を目指してまいります。

なお、本ビジョン策定にあたり多大なご協力を賜りました岡崎市、岡崎市ぬかた商工会、岡崎市六ツ美商工会の皆様、策定部会、策定委員会において熱心なご論議をお進めいただきました会員の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

平成19年3月

目次

総論	岡崎２０２０ビジョンの背景と最重点プロジェクト	１
１．	岡崎２０２０ビジョンの背景	１
２．	最重点プロジェクト	３
Ⅰ	岡崎２０２０ビジョン策定にあたっての基本的考え方	１１
Ⅱ	岡崎市における産業の現況と課題	１３
１．	岡崎市の産業を取り巻くマクロ環境の変化	１３
２．	岡崎市のポテンシャルと解決すべき課題	１５
Ⅲ	岡崎市における産業振興の目標像	１８
Ⅳ	産業振興のための短中期プロジェクト	２０
１．	産学官連携の推進による企業の高付加価値化支援と新産業の育成	２１
２．	産業の高度化と暮らしやすさの向上を図る都市の骨格づくり	２４
３．	中心市街地活性化とまちの顔の再生	２７
４．	伝統と自然を活かした新しい魅力の創造	３１
	【アクションプラン】	３３
参考	統計にみる岡崎市産業の現況	４１
岡崎２０２０ビジョン	策定経過	５６
岡崎２０２０ビジョン	策定委員会および検討部会名簿	５７

1. 岡崎 2020 ビジョンの背景

好調な輸送機械関連産業を中心に、岡崎市を含めた西三河地域の産業は活況を呈しているが、人口減少時代を迎え、今後都市間競争が激化することは避けられないと考えられる。岡崎市は古くから三河地域の政治・経済の中心として発展してきたが、隣接する豊田市はもちろん、安城市、西尾市、刈谷市等への産業立地・集積が進んでおり、経済面での中枢性は相対的に弱まりつつある状況である。

こうしたなか、平成 18 年（2006 年）1 月 1 日に岡崎市と額田町が合併を果たし、新たな岡崎市として発足した。新市の誕生は、岡崎の現況を見つめ、将来を思い描く好機である。実際、岡崎市では総合計画の改定を平成 20（2008）年度に予定しているなど、様々な構想・計画がこれから見直されることとなる。とくに旧額田町地域は現在その全域が都市計画区域外となっており、有効な土地利用の促進に向けた検討が急務である。

さらに、今後 10 年程度の間、岡崎市内ではまちづくりや地域の産業構造に影響を及ぼす様々な動きがある。

- ①交通バリアフリー法の規定により平成 22（2010）年度までに名鉄東岡崎駅のバリアフリー化、ないしその実現に向けた着手が義務づけられており、岡崎市では駅へのアクセシビリティと利便性の向上を目的として駅舎の橋上化を含む周辺整備が検討されている。
- ②平成 26（2014）年に第二東名高速道路の引佐 I C～豊田東 J C T が開通し、岡崎市内には額田 I C（仮称）が整備される予定である。同 I C 周辺は産業用地としてポテンシャルが高いことが従来より指摘されている。なお、第二東名高速道路の全線開通は平成 32（2020）年度の予定である。
- ③岡崎市額田地区と豊田市下山地区にまたがるおよそ 700 ヘクタールのエリアにおいて、トヨタ自動車テストコースおよび研究施設を建設する構想がある。愛知県企業庁が用地の買収・造成を行い同社に売却するスキームが想定されており、愛知県は平成 19（2007）年度予算案に航空測量や地質調査などの調査費として 14 億円余を計上している。環境アセスメントに最短 3 年を要することから、額田 I C（仮称）開業と同時期の竣工となる可能性もある。これに伴い、関連企業やその研究開発部門が、周辺に進出してくる可能性が高い。

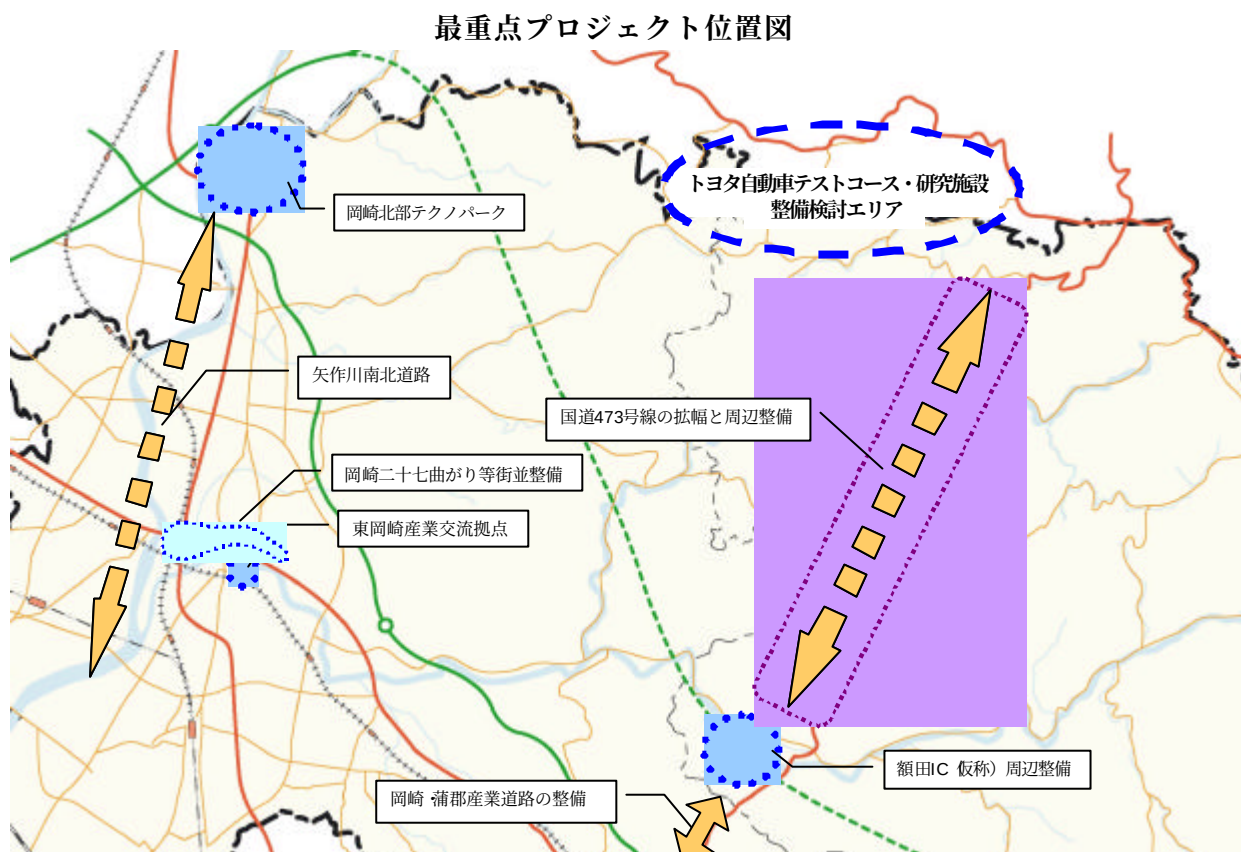
こうした背景を踏まえ本所では、今こそ産業界の声に基づき岡崎の将来に向けた提言を行うべき時機であると考え、本ビジョンを策定した。ビジョンの目標年次としては平成 32（2020）年を 1 つの区切りと考え、タイトルを岡崎 2020 ビジョン

としている。

平成 37（2025）年までに、現況の構造のままでは岡崎市の人口は減少に転じると予想されている。本ビジョンの提言が着実に推進されることで都市間競争に打ち勝ち、2020 年以降もなお岡崎市の人口や産業が維持拡大されていることを願うものである。

2. 最重点プロジェクト

本ビジョンの策定にあたっては本所会員を中心に産業界の声を集約し、様々なプロジェクトの提言を行っている（20 ページ～）。その中でも重要と考えるプロジェクトを示す。



（1）ものづくり産業の新たな挑戦

①ものづくり産業の高付加価値化に向けた取り組みの推進

岡崎を新産業・新技術の創造拠点に

製造業の生産拠点の海外移転が不可避となっている現在、国内のものづくり産業においては労働集約型から知識集約型への転換、高付加価値化への取り組みが強く求められているところである。岡崎市のものづくり産業には伝統的な工芸品・食品から先端産業まで幅広い事業者が存在するが、それぞれの分野で付加価値の高い新事業・新技術・新製品の開発を推進する必要がある。また、そうした取り組みの中から、岡崎市の産業の将来を支える新産業群が創出されることも期待される。いわば、岡崎市が新産業・新技術の創造拠点となることを目指すものである。

期待される新産業分野

現在の岡崎市の産業を牽引している自動車関連産業、機械産業等は技術水準も高く、より高度な技術開発を要求される分野への展開も可能と考えられる。現在政策的に推進されている分野では、航空宇宙産業が具体的なターゲットとなりうる。

また、市場のニーズも高い環境・バイオ分野に関しても、大学共同利用機関法人自然科学研究機構が立地している利点を最大限に活かし、異業種からの展開、広域連携も視野に入れた取り組みが期待される。この分野に関しては伝統的な産業、とくに食品産業の進出も可能であるほか、旧額田町の自然環境や森林資源を活用した取り組み、周辺市町も含めた農業との連携など、様々な可能性が考えられる。

産学連携推進機能、人材育成機能の整備

産業の高付加価値化を推進していく上で、大学や研究機関との共同研究等の産学連携の推進は有効かつ不可欠の取り組みである。現在岡崎市内には6つの大学等と、大学共同利用機関法人自然科学研究機構が立地しているが、大学等に関しては技術系の学部・学科を持つところは乏しく、一方自然科学研究機構については基礎研究が中心であることもあり、市内企業から「シーズがわかりにくい」などの指摘がされている。

産学連携の推進のためには、産業界側のニーズと、学の側のシーズの的確なマッチングを行う機能が不可欠であるが、ニーズ発掘の窓口は十分に整備されておらず、またニーズ把握が適切に行われてもそれに対応するシーズが市内には乏しい状況である。

こうした点を踏まえ、産業の高付加価値化のために高度なニーズ・シーズのマッチングを行う機能を、岡崎商工会議所を中心に整備する。シーズに関しては岡崎市内あるいは隣接地域にこだわらず、名古屋・豊橋・浜松などの技術系の大学・研究機関との連携を視野に含み、岡崎産業界のニーズに対し最も適切でクオリティの高いシーズとのマッチングを目指していく。

また、産業界が求める高度人材の育成に関しても、機能整備・充実を図る。当面は商工会議所の機能の充実を進め、将来的には産業界主導での高度技術人材の教育機関の設立も視野に含む。

【主な取り組み】

・大学等連携先の発掘とネットワークの強化

名古屋・豊橋・浜松などの技術系大学・研究機関、中部TLOなどとの連携強化、岡崎の産業界との交流機会（シンポジウム、研究会等）の創出拡大など

・大学等との共同研究を支援する窓口機能の整備

大学等のシーズの情報集約、ニーズ発掘とマッチング機能、コーディネータ等のサポート人材を備えた窓口機能拠点の整備など

・人材育成機能の整備・充実

産業界のニーズに応じた人材育成のための講座等の開設、学校教育と連携した若年層へのものづくり教育の展開、教育機関の設立検討など

・新産業創造に向けた連携機会の創出

域内外の企業等が連携による新産業創造の取り組みを図るよう、研究会の設置や

交流機会の創出を図る

②産業立地の促進や操業環境の改善のための産業用地の整備

産業用地の必要性

自動車産業を中心として東海地域の製造業は活況を呈しており、現在、愛知県内では産業用地の需給が逼迫しており、県内に用地を求めている企業がやむをえず岐阜県・三重県などに立地している状況である。生産拠点の多くは海外移転が進んでいるが、研究開発拠点や先端的なものづくりの現場はなお国内にとどまることが予想され、そうした企業の立地を進めることは地域の将来にとって重要な取り組みである。

また、住宅地の拡大によって従来工業エリアであった場所での住工混在が問題となっている。事業者の良好な操業環境の確保のためにも、産業用地の整備は喫緊の課題である。第2東名をはじめとする道路交通網の整備に伴い、産業立地に適した地域が今後新たに拡大すると予想されることから、需要動向を見据えつつ整備に取り組むことが求められる。

豊田東IC周辺など岡崎北部地域の整備（テクノパーク構想）

東海環状自動車道の豊田東ICに近接する地区（細川町、仁木町、八ツ木町など）は、広域道路網へのアクセス、豊田市への近接性などから産業用地として有望なエリアと考えられる。このエリアには輸送用機器製造を意識しつつ、特に大学共同利用機関法人自然科学研究機構（基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所の3研究所が岡崎に立地）の立地を活かした先端産業・開発型企業の集積や、日本のものづくり中枢としての西三河の技術・技能蓄積を活かした超高度基盤技術確立を目指す企業の集積を図る。このために、共同研究支援・試験機関誘致や地域の企業誘致奨励制度の拡充を進めると同時に、研究開発投資に対する優遇措置をはじめ企業が大胆に研究開発に取り組めるインセンティブ付与のための枠組みを構築する。

額田IC（仮称）周辺の整備

神奈川県海老名市から愛知県豊田市にかけ東名高速道路と並行する形で建設が進んでいる第2東名高速道路は、平成24(2012)年の御殿場JCT～引佐ICの開通を皮切りに、平成32(2020)年に全線開通の予定である。平成26(2014)年には引佐IC～豊田東JCT間の開通が予定されており、同時に岡崎市内には国道473号と交わる地点の近辺に額田IC（仮称）が整備される予定である。額田IC（仮称）周辺は製造・物流などの産業用地としてポテンシャルが高いことが従来より指摘されており、これを機に国道473号の拡幅と併せて産業用地を整備することで、岡崎の将来を支える企業誘致が十分に可能と考えられる。

トヨタ自動車新テストコース計画への対応

岡崎市額田地区と豊田市下山地区にまたがる山林地域において、トヨタ自動車がテストコースおよび研究施設を建設する構想がある。これに対し、愛知県企業庁がおおよそ700ヘクタールの用地の買収・造成を行い同社に売却する計画が進行しており、愛知県は平成19

(仮称) 矢作川南北道路の整備促進＝スーパー堤防道路

岡崎・蒲郡産業道路の整備促進

＜取り組みイメージ＞



（２）東岡崎駅近接地における産業交流拠点の整備

交通バリアフリー法の規定により平成 22（2010）年度までに名鉄東岡崎駅のバリアフリー化、ないしその実現に向けた着手が義務づけられており、岡崎市では駅へのアクセシビリティと利便性の向上を目的として駅舎の橋上化を含む周辺整備が検討されている。東岡崎駅は岡崎市における交通の要衝であり、岡崎市役所等の行政機能、大学共同利用機関法人自然科学研究機構などの研究開発・産業支援機能、康生通を中心とする商業機能、岡崎公園などの観光資源が周辺に立地する、まさに岡崎市の中心というべき位置にある。

一方、岡崎市にはその産業・経済の規模から見て不足する機能がいくつかある。例えば国際会議や学会、文化イベント等に対応可能なホール・コンベンション機能、既存産業の研究開発や交流を支える産学連携・産業交流機能、観光客やビジネス客・研究者などに対応した宿泊機能などである。

東岡崎駅の更新に併せ駅周辺にこれら機能を備えた拠点を整備することで、岡崎の多様な経済活動の中心としてこのエリアを強化することが可能である。岡崎市では平成 19 年度に中心市街地活性化基本計画の策定作業を予定しているが、その中でこの産業交流拠点の整備を位置づけることを提言するものである。

【整備する機能】

以下の機能・施設の導入を図る

・ホール、コンベンション機能

多様なイベント、国際会議等に対応可能な座席数を備えたホール、見本市等にも対応可能なコンベンション施設。併せて、コンベンション誘致組織も整備する。

・産学官民交流・連携支援センター

産業向けにはビジネスマッチングやセミナー、小規模な共同研究が可能な施設、ベンチャーや事業創出支援の為のインキュベート機能。市民向けには各種の講演会・講習会・相談会・交流会が開催可能な会議室を備え、学習・交流・連携により生活上の課題解決に繋げる機能

・人材育成・研修センター

最新の設備環境を備えた、まちづくりや多様なビジネス人材を育成する施設

・地場産業 P R センター

市内産業の P R と製品販売、地場産業体験施設

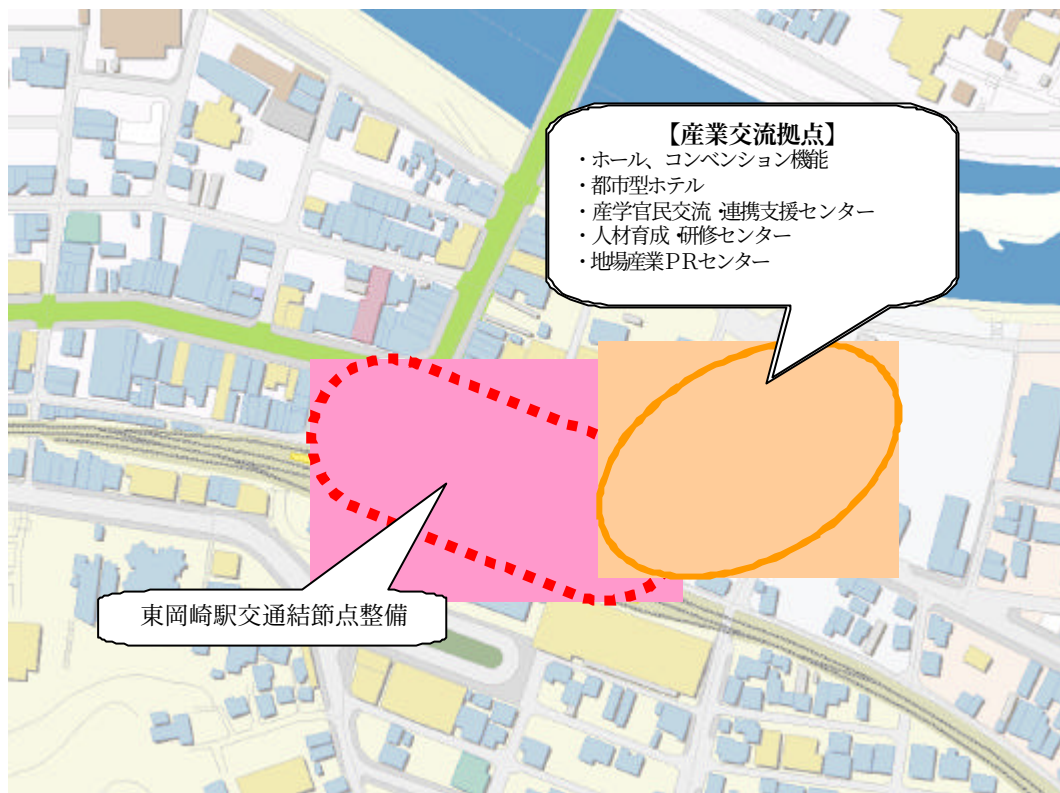
・都市型ホテル

観光客やハイグレードなビジネス客にも対応可能で、またバンケット機能を備えたホテル

【位置】

東岡崎駅の北東部、市有地を含む区画を想定

<取り組みイメージ>



（３）歴史的な景観の保全と歩行者回遊を促進する街並みの整備

江戸時代の岡崎宿は、東海道有数の規模を誇り、曲がり角の多い街並みから「岡崎の二十七曲がり」として有名で、現在でも欠町から伝馬通り、八帖町を経て矢作橋に至るこの街並みを往時をしのび散策する旅行者も数多い。この道筋に立地するいくつかの歴史ある店舗を核としつつ、岡崎の食文化や伝統産業をはじめとする歴史・文化の小拠点を配置し、岡崎の新旧の魅力を体感できる空間整備を施し、中心市街地活性化につなげるとともに、長期の歴史環境整備の骨格とする。



岡崎二十七曲がり地図（岡崎市観光協会）



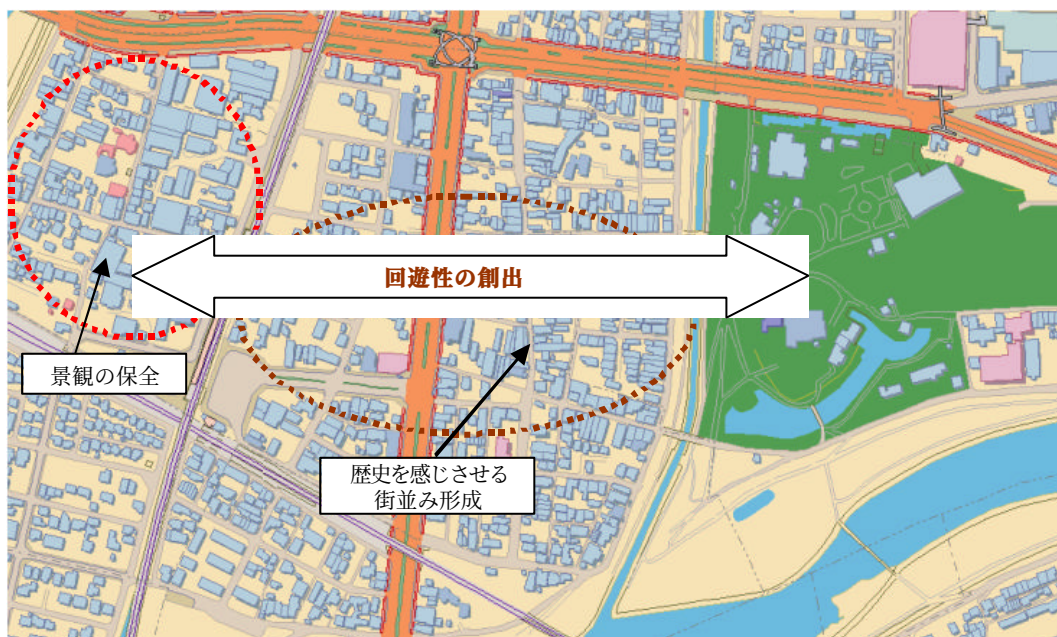
岡崎二十七曲がり絵図（岡崎市郷土館所蔵）

とくに、中心市街地の西に位置する八帖町周辺は中世から矢作川の渡し場として栄えていた歴史を有している。界限には八帖往還通り、八帖蔵通りなど現在でも歴史的な趣を感じる街並みが残っており、八帖味噌蔵と併せ岡崎を代表する観光スポットとなっている。このような歴史的な景観、街並みの保全は、岡崎の歴史を後世に伝えるとともに、観光資源として最大限に活用を図る上で重要である。平成19年に決定した八丁地区計画（岡崎都市計画）を生かし、積極的な保全・活用に取り組む。

また、隣接する板屋町なども江戸時代以来の歴史を持つ町である。岡崎公園から八帖町に至る線上に位置することから、歴史を感じさせる街並みを計画的に整備することにより、一帯の回遊性を高め、観光客など来街者に新たな魅力を提供することが可能となる。

従来より岡崎公園や八帖町を訪れる観光客はどちらか一方だけ、短時間の滞在で市外へ移動してしまうと言われており、相互の回遊性を高め、滞在時間を延ばすことが岡崎の観光振興のために必要かつ効果的である。両観光資源の間に位置する板屋町などの区域の街並み整備と適切な商業機能の誘導は、このような回遊性の向上に効果を発揮するとともに徳川家康以来の城下町である岡崎に「古くて新しい」魅力を創造することが期待される。

<取り組みイメージ>



I 岡崎2020ビジョン策定にあたっての基本的考え方

1. 岡崎市の産業界の想いを具現化する

岡崎2020ビジョンは2020年に向けた岡崎市および産業界のあるべき姿を示すものであり、岡崎商工会議所としては3度目の長期ビジョン策定となる。本ビジョン策定作業にあたっては、全会員を対象としたアンケートおよび商工会議所内の各部会へのヒアリングを踏まえ設置された4つの検討部会において、各々3回にわたり岡崎市の将来のための熱い議論が繰り広げられた。こうした議論を踏まえて策定される本ビジョンは、岡崎市の産業界の想いを凝縮し、具現化することをめざすものである。

2. 岡崎市における産業施策の長期的基盤となる

岡崎市では平成20年度に総合計画の見直しが予定されており、平成18年1月の額田町との合併を踏まえた新しい岡崎市の長期目標が設定されることとなる。また、平成19年度にはまちづくり三法改正を踏まえた新たな中心市街地活性化基本計画の策定作業も予定されている。今後も各種の施策について構想・計画の策定・見直し作業が順次行われていくものと考えられる。

この点を踏まえ、本ビジョンは岡崎商工会議所の行動計画であるばかりでなく、岡崎市の長期的な産業政策を意識し、その内容が市の政策に反映されるよう岡崎市に提言を行うものである。

3. 現在、そして将来のマーケットを見据えた戦略を構築する

少子高齢社会の進展や地球環境問題の顕在化、団塊世代の退職に伴う就労構造の変化など、マーケットを取り巻く環境は今後も大きく変化することが予想される。こうした中で地域経済の維持・成長を図るためには、市場環境を的確に見据え、将来にわたって消費者に訴求する製品やサービスの提供、インフラ整備などに取り組むべきである。地域資源（シーズ）と市場（ニーズ）のマッチングが的確に図られた産業戦略を構築することを意識する。

4. 実行性と実効性を重視したアクションプランを作成する

世の中で作られる多くの地域の活性化のための構想は、そこに記された事業の大半が実現しないまま更新のときを迎えることが多い。岡崎商工会議所や岡崎市が過去に作成した長期ビジョンにおいても例外ではなく、これまで構想・計画が示された施策の全てがかたちになったわけではない。本ビジョンは先に記したように岡崎市の長期的な産業政策の基盤となることを働きかけていくものであるが、長期目標

のみならず短中期に取り組むべき施策をアクションプランとして付記することとし、これについては実行性を最大限に追求するものである。また、実行されてもそれが地域産業経済の発展に寄与しなければ意味はない。実行性と同時に、その活性化効果＝実効性を重視してアクションプランを作成する。

II 岡崎市の産業における課題

1. 岡崎市の産業を取り巻くマクロ環境の変化

岡崎市の産業振興を考えるにあたって、念頭に置いておくべきマクロ的な環境の変化について示す。

(1) 人口減少・少子高齢社会の進展

わが国の人口は2005年をピークに減少局面に転じており、同年の合計特殊出生率は1.25と、これまでの最低数値を更新している。愛知県の同年の合計特殊出生率は1.30と全国値を上回っているが、それでも人口維持に必要な2.06にはほど遠い数字である。岡崎市の同年の合計特殊出生率は1.46と、全国、愛知県に比べ高いものの、将来的には人口減少局面を迎えることは避けがたい状況である。

一方、2005年にわが国の65歳以上の高齢者人口比率は先進国では初めて20%を超過した。国立社会保障・人口問題研究所の推計（中位推計）によれば、2025年までにわが国の総人口は700万人減少して1億2千万人を割り込むが、高齢者人口はこの間に1千万人以上増加する見込みである。岡崎市でも2000年時点で13.5%と全国に比べれば高齢化のスピードは遅いものの、仮に2030年まで合計特殊出生率1.46を維持したとしても2015年には高齢者人口比率は20%を超過すると予測され、人口も減少局面に入ると予測される。

このように、全国に比べて人口減少・少子高齢化のスピードは緩やかなものの、その流れはもはや必然であり、産業振興施策の検討にあたっては、産業を支える担い手は現在より確実に減少するということを前提に考えなければならない。

※2005年の合計特殊出生率は概算値

(2) 知識集約型の高付加価値産業への転換要求の増大

上記の人口減少・少子高齢化の進展と表裏一体で、国内産業、とくに製造業において労働集約型産業から知識集約型産業への転換が進んでいる。労働集約型の産業分野では、工場設備の大型化などから広大な工業用地を確保できる北海道・東北や九州などへの工場進出が進んでおり、また豊富な労働力と安価な人件費を背景にアジア諸国への生産現場の移転も加速している。さらに、自動車産業を中心とした国際的な部品調達も進んでいることから、下請けなどの中小製造業にとって極めて厳しい操業環境が待ち受けているとみられる。

一方で研究・開発型の企業や事業所、付加価値の高い製品を生産する事業所は国内にとどまり、国内で新規立地するケースも多く、岡崎市近辺でいえばトヨタ自動車のテストコースの計画などがあげられる。

このように国内製造業は生き残りのために高付加価値型産業への転換を余儀なくされており、地域においてはそうした産業の高度化への取り組みに対してどう寄与できるかが問われる時代である。

（３）ライフスタイルの多様な変化

少子高齢化はもとより、様々な要因が国民のライフスタイルの変化に影響を与えている。一例を挙げれば、情報化社会の進展は国民の嗜好に「画一化と多様化」という両極の影響を与えており、常に変化し新しい刺激を与え続けることによって大衆を惹きつけるか、より深化・先鋭化することで一部の強い関心を喚起し続けることが、市場戦略の中心に置かれるようになっていく。

1990年代後半から急速に高まっている地球環境問題への関心も人々のライフスタイルを左右する要因の一つに挙げられる。とくにここ数年は異常気象とも言える状況が続き、「地球温暖化」という現象とそれがもたらす結果について、多くの人々が実感として意識するようになっていく。

こうした環境問題への関心の高まりは、行き過ぎた大量生産・大量消費社会を見直す動きにもつながっている。「ゆっくり、ゆったり、心豊かに」を標榜する「スローライフ」という考え方もその一環である。このような人々の自然回帰志向、健康と環境配慮を追求するライフスタイルである「LOHAS」志向などは、団塊世代の大量退職などもあり、今後とも拡大していくものと考えられる。

自然環境と質の高い産品に恵まれ、またこうした志向を持つ人々が多い大都市部からアクセスの良い岡崎市においては、産業振興の主要なターゲットとなりうる動きである。

（４）コンパクトなまちづくりへの挑戦

2006年にいわゆるまちづくり三法が改正され、大型商業施設の新規の郊外立地には一定の歯止めがかけられることとなった。さらに、中心市街地活性化に取り組む自治体に対しては、国がそのための支援を行う条件として、更に郊外開発を抑制し、公共施設の中心市街地への集約や居住機能の整備を推進するなど、「コンパクトシティ」化に取り組むことが義務づけられることとなる。

全国的に市町村合併が進み、自治体がその面積を拡げている中で、中心市街地に都市機能を集中するコンパクトシティの構築を推進しつつ、郊外部の生活環境を損なわずに暮らしやすいまちをつくるということは難しい取り組みである。全国で600超の地域から中心市街地活性化基本計画が提出された旧法に比べ、改正法に則り基本計画を策定する自治体は大きく減ると予想されているが、果たしてコンパクトシティ構築の試みは成功するのか、またそれによって中心市街地の活性化は実現するのか、その成否が注目されている。

2. 岡崎市のポテンシャルと解決すべき課題

マクロ的な環境変化および岡崎市の産業の現況（巻末「参考 統計にみる岡崎市の現況」参照）を踏まえれば、産業振興の方向を示す岡崎市のポテンシャルと、解決すべき課題として以下が導出できる。

（１）高付加価値産業への転換可能性

①高付加価値産業創出のポテンシャル

産業振興を考える上で、伝統産業を含むものづくり産業、農業、商業、観光産業など、あらゆる業種において「産業の高付加価値化」は国内産業の最大の目標である。岡崎市においても、個々の業界・企業においては「より高く売れる産品や技術・サービス創出への取り組み」は常に模索されており、自動車関連産業や先端技術分野をはじめ、伝統産業の技術や資源を活用した製品なども愛知万博や「八丁味噌」のブームを契機に成果を挙げつつある。その点で、より高次の付加価値を創り出す能力は、岡崎市の産業界には備わっていると考えられる。

②「連携と協働」というスキームの構築

一方で、「企業・業種間の連携・協働がみられない」「伝統的な優れた技術が活かしきれていない」という指摘も多い。異業種間の「連携と協働」は、目的を一にする限りは新たな付加価値の創出には有効であり、地域産業のポテンシャルを引き上げる手段として積極的に取り組まれるべきである。

開発、加工、マーケティング、製品化、販路開拓、販売といった様々な局面でノウハウのある事業者と協働し、また異業種の視点やアイデアで新たな開発に取り組むことで、「売れる商品」「儲かるビジネス」の創出につながりうる。製造業や伝統産業に限らず、様々な業種で「連携と協働」による付加価値創出の可能性はある。

こうした「連携と協働」をいかに進めるかが、岡崎市産業振興の重要な課題である。

③産業の高付加価値化を支える機能の強化

国内のものづくり先進地である西三河にあり、かつ生活環境に優れた岡崎は産業界にとって魅力ある場所であり、その環境を求めて岡崎市に立地している製造業は多い。こうした企業群の中には研究・開発を事業の柱に置く事業所も多く、高付加価値型の操業が既に多くの企業で行われていると言える。

その一方で、これら企業の操業を維持する高度な人材の確保が困難となりつつあることや、高度な技術開発を支える連携、共同研究ニーズを満たすだけの大学や研究機関の不足が指摘されている。

こうしたことから、企業の操業を維持し、新たな付加価値の獲得を支援するために、高度な人材の育成・確保や産学連携を支援する機能の拡充が課題として挙げられる。

（２）コンパクトシティと生活しやすいまちづくり

①まちづくりのポテンシャル

岡崎市では本産業振興ビジョンと並行して改正まちづくり三法に対応した中心市街地活性化基本計画を、平成 19 年度に策定予定である。これによって中心市街地に様々な都市機能を集約するコンパクトシティづくりと、商業等の活性化への取り組みが平成 20 年度以降に本格化するものと考えられる。図書館の整備と併せ、まちの活性化に向けた新たな局面を迎えることとなる。

岡崎商工会議所も活性化協議会の一員としてこの取り組みの一翼を担う予定であり、市民・事業者・来街者のそれぞれにとって魅力あるまちづくりを進める体制は整いつつある。

一方で商業機能の中心が移動しつつあることや、市内幹線道路における慢性的な渋滞の発生、名古屋鉄道とＪＲ、愛知環状鉄道などの公共交通の相互連携が乏しいことなどが、まちの核としての中心市街地の位置づけを難しいものにしている。

②生活しやすいまちづくり

岡崎市は教育・文化・自然・アクセスなど様々な点で、周辺他都市と比べ「暮らしやすい」ことが度々指摘されている。都市間競争を勝ち抜く上で、この「暮らしやすい」ということは最大のアドバンテージになりうる。生活者に視点を置いたまちづくりの推進は、企業の立地選定にも影響を与えうる。産業振興のためにも、「生活しやすいまちづくり」は重点的に取り組むべき目標であるといえる。

このためには、上記でも触れた道路交通、公共交通の問題点の解消は重要な課題である。また、住宅地が拡散する中で住工混在地域が増加しつつあることも、早急に対応策を検討すべき問題である。

（３）住民や来訪者のニーズに応える地域の魅力の創出

①来訪者や市民のニーズに応える地域創造のポテンシャル

近年話題となり、またこの先大きな市場を獲得していくであろうライフスタイルとして、先に挙げた「スローライフ」がある。スローライフを構成する市場は、有機農産物や手作りの無添加食品などの「スローフード」、エコツーリズムや農業体験、伝統工芸体験などの「スローレジャー」、石油代替エネルギーとしてのバイオマス等の「スローエネルギー」など様々な要素があり、それぞれ拡大しつつある。スローライフと類似した概念である「LOHAS」(lifestyle of health and sustainability: 健康と環境に配慮したライフスタイル)の市場規模は、米国では既に 30 兆円に達し、日本の市場規模も 10 年後には 20 兆円に達するという予測もある（※NPO法人ローハスクラブ、丹青社マーケティング研究所ほか）。

合併後の岡崎市には旧額田町地域に豊富な自然環境を有し、また八丁味噌や石製品をはじめとする伝統的な産業が多く存在し、テレビドラマの影響でそれが注目されている岡崎市はこうした市場にアピールすることが十分に可能である。日本の地方都市の多くは海山の自然に囲まれていることから、各地でこうした市場を狙った取り組みが既に盛んに行わ

れているが、岡崎市が他地域に比べ優位な点もあり、差別化のポイントを明確にしつつ、市場への対応を図ることでポテンシャルを発揮できると考えられる。

【差別化ポイントの例】

- ・自然環境のみならず、食品、伝統工芸品などの質の高い産品が豊富に存在する。
- ・スローライフ志向を持つ人々が多い大都市部に近接している。また、岡崎市民にとっても健康と環境は関心の強いテーマと考えられる。
- ・旧東海道の宿場町であり、徳川家康の生地として全国的なネームバリューを持つ。
- ・蒲郡などと連携することにより、海・山の豊富な資源をアピールできる。

②来訪者に対する選択肢の充実

スローライフ市場に訴求する地域に岡崎市がなりうる可能性は高いが、現在のままでは全ての来訪者を満足させられる状況とは言い難い。自然に親しむ、伝統の技を見る、体験するといったメニューが一部提供されてはいるものの、豊富なメニューとは言い難い。また、「食」に関する選択肢の乏しさは、従来より度々指摘されてきたところである。

限定された資源、限定されたサービスでは集客には限界がある。様々な局面で「選択肢」を増やす努力が必要である。

III 岡崎市における産業振興の目標像

1. 「暮らしやすい岡崎」を追求する都市基盤の整備

岡崎での暮らしを、利便性が高くまた上質なものにすることは、長期的には産業振興に繋がる取り組みである。既に「暮らしやすい」ということに関し一定の評価を得ている岡崎市であるが、交通・教育・医療・買い物・レジャーなど、暮らしを支える都市基盤の整備にはまだまだ不十分な部分も多い。これら都市基盤の整備を図り、若い世代や高度な知識や技術を有する人材にとって魅力ある地域を創出することが、産業機能の維持向上に重要な役割を果たすと考えられる。

2. 安全・安心・本物を提供する高付加価値産業群の創出

産業全般にわたり、消費者に対し「安全」かつ「安心」できる高品質・高品位な製品・製品を提供することを徹底する。

伝統産業を含む製造業や一次産業等において、国内企業・事業者は安価な輸入品や海外企業との競合に疲弊しており、岡崎市の事業者もその例外ではない。しかしながら労働力供給に圧倒的な差がある海外に対し価格競争を挑むことは現実的な選択ではない。価格が高くても消費者が購入を選択するような、「安全」で「安心」できる「本物」を使った新しいモノなど付加価値の高い製品づくりに取り組むことが、国内企業・事業者が生き残る道のひとつである。

「安全である」「安心である」「本物である」ということは、それ自体が重要な付加価値であり、消費者への訴求力は高い。安全・安心な製品を産み出す生産技術の開発と、本物を作り続けることができる伝統・技術の継承を図るとともに、生産環境を良好に保つことがその第一歩となる。

また、製造業だけでなく、商業や観光関連産業などサービス産業を含むあらゆる産業分野で「安全」「安心」「本物」の提供が求められる。

3. 高付加価値産業群の創出を支える連携と協働の推進

産業界を挙げて高付加価値化に取り組むにあたり、市場ニーズへの対応、技術面でのブレークスルー、販路形成といった諸問題を解決するためには、産学連携をはじめとする「連携と協働」の推進が不可欠である。現在連携先が乏しい研究機能については商工会議所が中心となりシーズ・ニーズマッチングに一層努めていくほか、大学等の研究機能の強化や立地促進に、官民一体となって取り組んでいく必要がある。

また、異業種間の連携と協働についても、機会の創出やコーディネートなどに積極的に努めていくものである。

観光集客の面でもグリーンツーリズムや健康増進プログラム、伝統産業の体験機能など、農業や製造業など異業種間の「知恵や技術」の交換を図ることで新たな付加価値が創造可能である。

4. 岡崎の未来を支える人材の育成

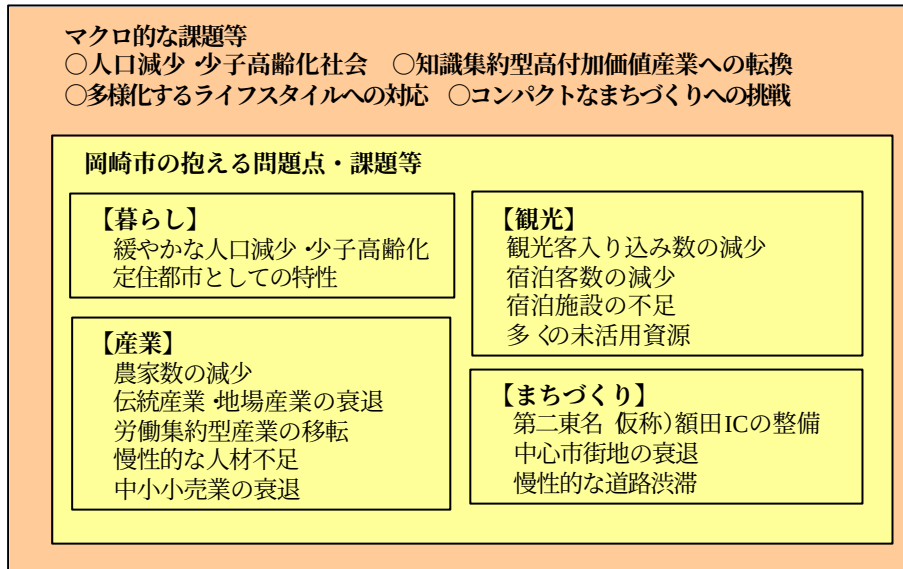
少子高齢化の進展に伴い、現在の操業水準の維持が困難となる産業も今後顕在化することが予想される。また、発展の可能性のある産業においても、就業者の確保は今後大きな課題となりうる。

前述の「暮らしやすさの追求」ための都市基盤の整備はこうした課題に対応する方策の一つであるが、岡崎に誇りと愛着を持つ人材の育成、岡崎の将来を支える人材の育成、また産業の高付加価値化を推進する高度・専門人材の育成は、将来に向けてすぐにも着手すべき取り組みである。

例えば学校教育における産業技術の体験学習などは、地域に対する理解を伸長する上でも効果がある。また、同業者間、異業種間の交流や連携により、他者の優れた事業手法・ビジネスモデルを共有していくことも、人材育成の一環として効果が期待される。

IV 産業振興のための短中期プロジェクト

岡崎市の抱える課題や商工業を取り巻くマクロ的な環境変化を踏まえ、今後、岡崎市の商工業が持続的に発展していくためのリーディングプロジェクトを以下のように設定する。



リーディングプロジェクト① ～産学官連携の推進による企業の高付加価値化支援と新産業の育成～

大学との共同研究を支援する窓口機能の強化 **【最重点プロジェクト】**
 地域資源を活用した新事業等創出のための試験・研究開発拠点機能の整備 **【最重点プロジェクト】**
 企業の地力を向上する人材育成支援 **【最重点プロジェクト】**
 産学官などの交流機能の整備 **【最重点プロジェクト】**

リーディングプロジェクト② ～暮らしやすさの向上を図る都市の骨格づくり～

南北幹線道路の整備 **【最重点プロジェクト】**
 国道一号線など渋滞箇所の解消
 都市計画マスタープランの見直しなどによる適切な土地利用誘導
 豊田東IC、第二東名（仮称）額田IC周辺等における産業用地の開発 **【最重点プロジェクト】**
 快適な居住環境の提供

リーディングプロジェクト③ ～中心市街地活性化とまちの顔の再生～

東岡崎駅の再整備と近接地への交流拠点機能の整備 **【最重点プロジェクト】**
 中心市街地活性化に向けた事業推進環境の整備と事業の実施
 公共交通体系の再構築

リーディングプロジェクト④ ～伝統と自然を生かした新しい魅力の創造～

歴史的な景観の保全や街並み・文化拠点の整備 **【最重点プロジェクト】**
 体験型観光施設の整備
 既存の「食」の活用と新たな食文化の創造
 旧額田町地域の自然体験機能の整備

1 リーディングプロジェクト①

「産学官連携の推進による企業の高付加価値化支援と新産業の育成」

(1) 目的と取り組みの概要

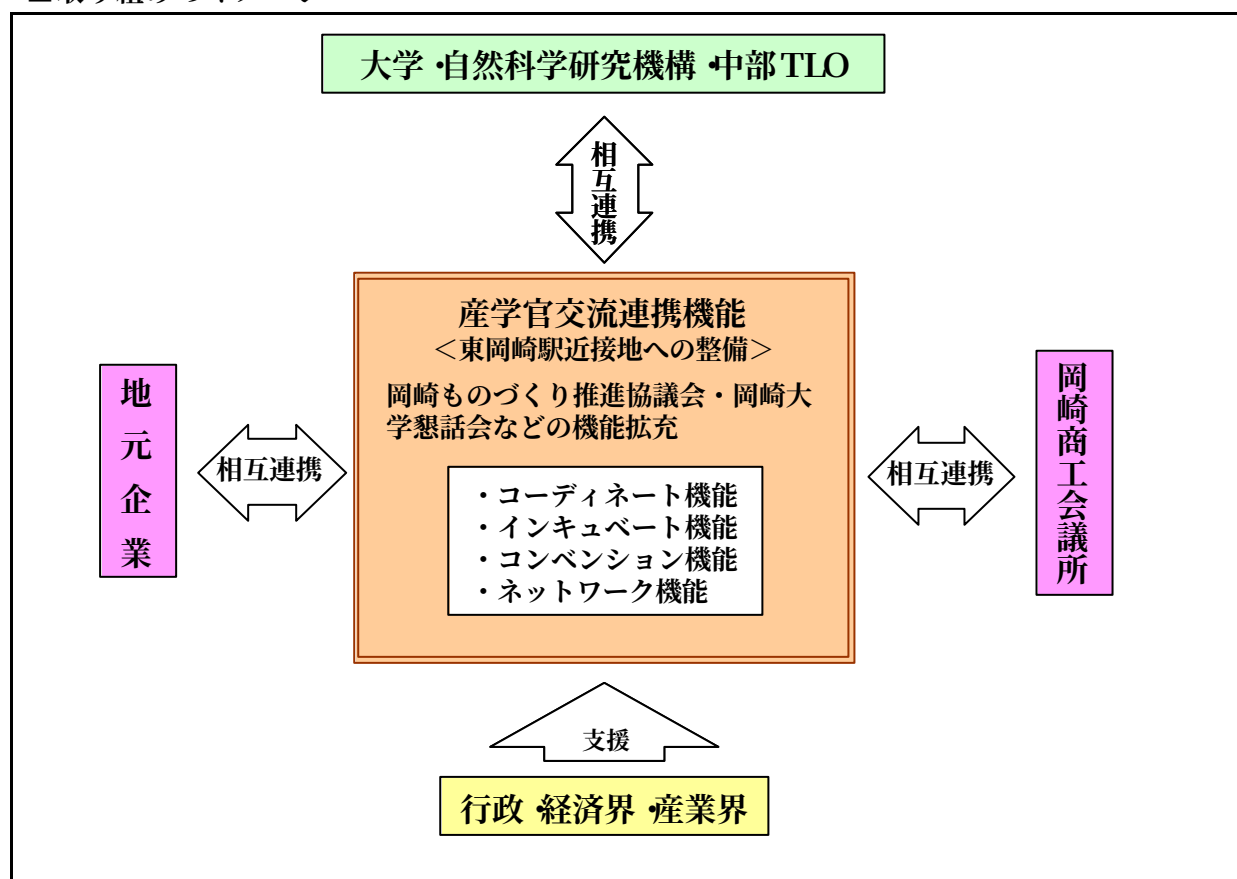
岡崎市に立地する企業はトヨタ自動車などの大企業の下請けが多いが、産業のグローバル化が進む中で、事業用地確保の容易さや安価な人件費などからそれら大企業の製造拠点の地域外への移転が進んでおり、地元企業にとって非常に厳しい環境が続いている。

そのような中で地元企業が持続的に操業していくためには、労働集約型から知識集約型へと転換を図り、東アジア諸国など他地域では追いつけない付加価値の高い製品を提供していくことが求められる。そこで、地元企業の高付加価値化を産学官連携により効率的かつ効果的に図ることのできる取り組みを進めていく。

また、市内に立地する繊維や石工などの伝統産業や地場産業についても厳しい操業環境が続いているが、例えば匠の熟練した技術や技法をロボット技術へ応用するなど、新たな事業展開を可能とする付加価値創造に向けた研究開発への支援を行う。

なお、地元企業では厳しい操業環境の中でも慢性的な人手不足が続いている状況にあることから、生産現場での労働力の確保や技術者などの養成、また働きやすい労働環境の実現など、地元企業が安定して人材を確保できるような支援を行う。

■取り組みのイメージ



(2) 主な取り組み事業

①大学との共同研究を支援する窓口機能の強化

地元企業の高付加価値化を図ることのできるような大学等との共同研究を推進するためのニーズ・シーズのマッチング機能の整備・強化を行うとともに、それらをサポートする人材の育成に向けた取り組みを行う。

一方、市内の大学に設置されている学科では地域産業のニーズに十分対応できないことから、名古屋、豊橋、浜松などの技術系の大学・研究機関との連携を強化するとともに、新たな教育機能の設置に向けた検討も進める。

【取り組み内容】

- ・岡崎ものづくり推進協議会、岡崎大学懇話会を中心とした推進体制の検討と構築をおこなう。
- ・推進体制を中心とした支援プログラムやサポート人材育成プログラムなどの事業計画を策定し、実行する。
- ・市内大学への学科の新設など新たな教育機能について、推進体制と行政、大学など関係機関により検討をおこなう。
- ・商工会議所を中心に導入可能性の検討をおこなうとともに、東岡崎駅近接地に整備する産業交流拠点内への機能導入可能性についても検討をおこなう。

②地域資源を活用した新事業等創出のための試験・研究開発拠点機能の整備

石工や繊維、花火、醸造など市内に立地する伝統産業や地場産業の有する技術・技法を応用・転用することで、新たな事業や製品の開発に結びつく可能性があることから、伝統産業や地場産業の有する技術・技法を応用した新事業や新製品の開発などを推進する拠点機能を東岡崎駅近接地に整備する産業交流拠点内へ整備する。

【取り組み内容】

- ・岡崎市と商工会議所、大学懇話会が参画する検討組織を組成し、検討を行う。
- ・施設概要の検討や施設計画にあたっては、検討組織に匠の会など関係者や関係機関を加え、具体的な事業計画を策定し実行する。
- ・施設の検討と平行して、効果的な事業展開に資する伝統産業や地場産業の有する技術・技法のデータベース化などを進める。

③岡崎市の産業力を向上させる人材育成支援

慢性的な人手不足を解消するための雇用対策の推進と、技術者人材の養成や育成を支

援するための取り組みを展開する。なお、今後、少子化が進むことで労働力が減少することが予想されることから、労働力を確保するためにも外国人労働者や技術者も含めた人材の養成や育成を行う。

また技術開発や商品開発など先進的な取り組みを行う企業や起業家精神の旺盛なアントレプレナーへの支援などの取り組みも併行して進める。

【取り組み内容】

- ・人材育成については、商工会議所が事務局となり、(独)雇用・能力開発機構や岡崎地区外国人雇用管理推進協議会、教育機関など関係機関からなる検討組織を組成し、事業体制や指導カリキュラムの検討を行い、事業計画を策定し実行する。検討にあたっては、新たな教育機関設立の可能性についても検討をおこなう。
- ・先進的な取り組みを進める企業や起業家精神旺盛なアントレプレナーへの支援を行うための制度についても、あわせて検討をおこなう。なお、支援制度については、可能な限り早期実現を目指す。

④産学官などの交流機能の整備

中核市である岡崎市に相応しい、大規模な異業種交流会や学会等が開催できるホール、コンベンション機能および、それらイベント等への参加者・関係者が宿泊・滞在できる機能を東岡崎駅近接地に整備する産業交流拠点内に整備する。また、コンベンションやイベントの誘致を推進する組織もあわせて組成する。

【取り組み内容】

- ・岡崎市と商工会議所が共同で推進体制を構築し、施設の概要やスケジュール、事業スキームなどの検討をおこない、事業計画を策定し、実現化に向けた取り組みをすすめる。
- ・事業計画の検討と併行して、コンベンションやイベント誘致に向けた体制の検討と構築をおこなう。なお、施設整備後の高い利用率を実現するためにも、市内に立地する既存の施設で開催可能なイベントやコンベンションなどを積極的に誘致することで、イベントやコンベンション開催地としての岡崎市の位置づけを高めていく。

2 リーディングプロジェクト②

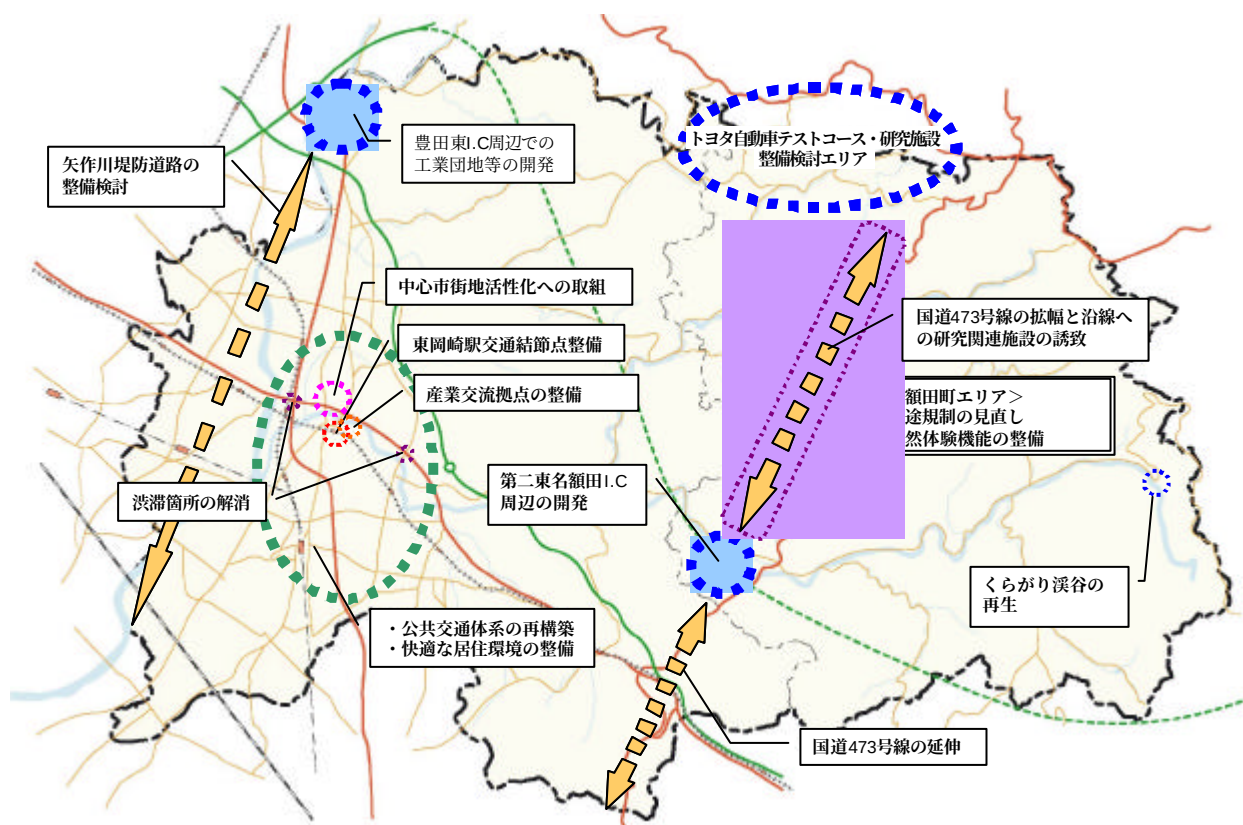
「産業の高度化と暮らしやすさの向上を図る都市の骨格づくり」

(1) 目的と取り組みの概要

岡崎市には東名高速道路や国道一号線など、わが国の基幹を成す道路が複数横断しているが、南北方向は国道 248 号線など限られた状況で接続が脆弱な状況にある。今後、第二東名高速道路と額田 I C（仮称）の整備が予定されているが、現状では額田 I C（仮称）と国道一号線や、市外を通過する国道 23 号線などの基幹道路を結ぶ南北方向の連絡が脆弱であり、将来的に南北方向を縦断する基幹道路の必要性、重要性が今以上に高まることから、予想されることから、南北方向を接続する国道 473 号線の延伸など、基幹道路の早期実現を目指した働きかけを行う。また、岡崎市額田地区と豊田市下山地区にまたがる山林地域において、トヨタ自動車テストコースおよび研究施設を建設する構想があることから、国道 473 号線等のテストコース予定地に向けての拡幅整備と、関連研究施設等の誘致に向けた沿線の用地開発を行う。一方、国道一号線を中心に慢性的な渋滞が発生しており、産業活動や市民の日常生活に大きな影響を及ぼしていることから、交差点の高架化や地中化など渋滞解消に向けた早急な対応を進める。

また、平成 18 年 1 月に額田町と合併したことにより市域が拡大したが、旧額田町は全域が都市計画区域外であることから、新しい岡崎市としてバランスのとれた都市構造を実現する上でも、早期に旧額田町の都市計画区域化を実施し、適切な土地利用を誘導する。

■取り組みのイメージ



(2) 主な取り組み事業

①南北幹線道路の整備

南北方向の道路ネットワークの脆弱性解消に向けた、矢作川堤防道路のスーパー堤防としての整備と国道 473 号線の国道 23 号線までの延伸や都市計画道路の早期整備を推進する。なお、第二東名額田 I C（仮称）からトヨタ自動車テストコースおよび研究施設の建設候補エリアへ接続する国道 473 号線の区間については、4 車線化などの拡幅と同時に研究関連施設誘致のための沿道用地開発を進める。

【取り組み内容】

- ・推進母体となる協議会を行政が中心となり設立し、早期事業化に向けた働きかけを関係機関に行っていく。
- ・矢作川の堤防道路をスーパー堤防として整備することについて、その可能性検討を行う。
- ・第二東名額田 I C（仮称）以北の国道 473 号線の拡幅と沿道の用地開発は、トヨタ自動車のテストコースおよび研究施設構想の動向をみながら検討を進める。

②国道一号線など渋滞箇所の解消

国道一号線など市内の主要幹線道路における慢性的な渋滞解消に向け、渋滞箇所の地中化や立体交差化の推進、また自動車交通量を分散させ、矢作川渡河部におけるボトルネック解消にもつながる新たな架橋の整備などを推進する。また、国道一号線や国道 248 号線の渋滞対策などとして、矢作川堤防上の道路整備も視野に含み、適切な手法の検討を行う。

【取り組み内容】

- ・行政が中心となり、渋滞箇所の調査や整備対象区間、事業手法の検討を行い、早期事業化に向けた働きかけを関係機関に行っていく。

③都市計画マスタープランの見直しによる適切な土地利用誘導

旧額田町における都市計画を早期に検討するとともに、工業、商業、住宅など市域全体の用途規制の見直しや、市街化調整区域の開発の弾力的な運用を推進することで、ゾーニングに基づくバランスのとれた都市構造の実現を図る。

【取り組み内容】

- ・商工会議所の会員企業からなる研究会を組成し、産業界からみた新しい岡崎市に相応しい土地利用のあり方を検討し、行政に対する提言をおこなう。

④豊田東 I C 周辺、第二東名額田 I C（仮称）周辺等における産業用地の開発

豊田東 I C に近接したエリアについては、広域交通網へのアクセスや豊田市との近接性の面で産業用地としてのポテンシャルが期待される。テクノパークとして整備を図り、公的研究機関との連携機能の強化や、立地に際してのインセンティブ整備などにより先端産業・開発型企業の集積を図る。

また、整備が予定される第二東名額田 I C（仮称）周辺は、物流拠点や工業団地としてのポテンシャルが期待されていることから、新たな産業の立地や、市街地での住工混在の解消を目的とした中小企業の立地対応を推進するため、産業用地としての開発に向けた取り組みを進める。また、額田 I C（仮称）から国道 1 号線に向け整備予定の連絡道路沿いの用地整備についても検討する。

さらに、整備構想があるトヨタ自動車の新テストコースの開発動向を睨み、額田 I C（仮称）から計画地に至る国道 473 号線沿いについても道路拡幅や周辺用地開発の検討を行う。

【取り組み内容】

- ・行政、商工会議所、地権者などによる協議会を設立し、豊田東 I C、額田 I C（仮称）周辺等の土地利用計画や事業計画の策定を行い、実現化に向けた取り組みを推進する。

⑤快適な居住環境の提供

中心市街地における集合住宅の供給、周辺部の住工混在の緩和、道路や公共交通機能の整備、教育機関の誘致・整備などを総合的に推進し、「暮らしやすい岡崎」を実現する。

【取り組み内容】

- ・商工会議所の会員企業を中心とした研究会を組成し、「暮らしやすい岡崎」に関する提言をまとめ、関係機関や関係者への働きかけを進める。

3 リーディングプロジェクト③「中心市街地活性化とまちの顔の再生」

(1) 目的と取り組みの概要

康生地区や本町地区は、古くから西三河地域の中心的な商業地として栄えてきたが、モータリゼーションの進展と郊外型大型店の立地により、空店舗が並ぶなど商業地としては衰退の一途を辿っている。また、岡崎市の玄関口ともいえる東岡崎駅は駅舎および駅ビルの老朽化が進み、駅周辺も老朽化したビルが建ち並ぶ状態となっている。

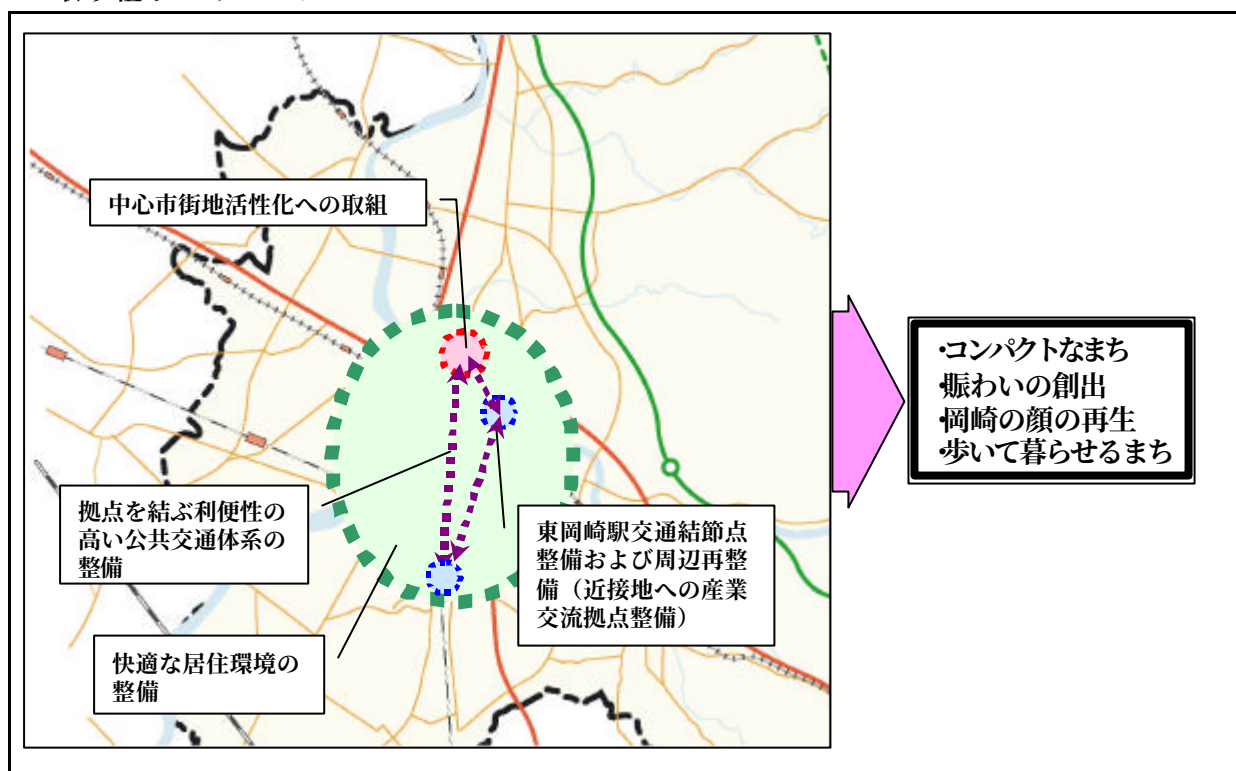
一方、康生地区や本町地区では、中心地としての賑わいを取り戻すための新しい図書館の建設や岡崎ジャズストリートなど集客効果の高いイベントへの取り組みがすすめられている。また、空店舗へデザイン関連企業やIT関連企業が入居するなど商業以外の産業の集積やマンション建設による常住人口の増加など新たな動きが見られる。特に、2006年に改正されたまちづくり三法では、都市機能や行政機能を集約させる「コンパクトシティ」の考えが打ち出されており、康生地区や本町地区における新たな動きは、コンパクトシティの具体化に向けた端緒となる可能性が高いと考えられる。

また、岡崎市では東岡崎駅へのアクセシビリティと利便性の向上を目的として駅舎の橋上化を含む周辺整備が検討されており、こうした動きが周辺街区の再開発を誘発する可能性がある。

そこで、康生地区・本町地区などの中心市街地においては、市民向け商業機能の充実とイベント開催による賑わいの回復に努めるとともに、公共交通の利便性向上や都市型産業や都市機能の集積、バリアフリー化など生活の場としての利便性を向上させることで定住化を促進し、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを進めていく。また、老朽化の進む名鉄東岡崎駅においては、岡崎市が検討を進める、駅へのアクセシビリティと利便性の向上を目的とした駅舎の橋上化を含む周辺整備と併せて、近接地への産業交流拠点の整備をすすめることで、岡崎のまちの顔として再生を図っていく。

一方、魅力あるまちには元気な小売店・商店街の存在が不可欠な要素といえる。小売店・商店街が少子高齢化の進行や、環境や健康重視など生活スタイルの変化により生じるニーズを素早く取り込むことで存在感を高め、併せて、顧客満足度向上の視点を重視しつつ個性化・専門化を進め、スーパーマーケットやコンビニエンスストアとの差異を明確としてゆくよう誘導する。

■取り組みのイメージ



(2) 主な取り組み事業

①東岡崎駅の再整備と近接地への産業交流拠点の整備

交通バリアフリー法の規定により、名鉄東岡崎駅は平成22年（2010）年度までにバリアフリー化、ないしその実現に向けた事業着手が義務づけられている。岡崎市が検討を進める、駅へのアクセシビリティと利便性の向上を目的とした駅舎の橋上化を含む周辺整備と併せて、近接地への産業交流拠点の整備など、岡崎の顔としての再生を図る。

【産業交流拠点への導入機能】

○ホール、コンベンション機能

多様なイベント、国際会議等に対応可能な座席数を備えたホール、見本市等にも対応可能なコンベンション施設。併せて、コンベンション誘致組織も整備する。

○産学官民交流・連携支援センター

産業向けにはビジネスマッチングやセミナー、小規模な共同研究が可能な施設、ベンチャーや事業創出支援の為のインキュベート機能。市民向けには各種の講演会・講習会・相談会・交流会が開催可能な会議室を備え、学習・交流・連携により生活上の課題解決に繋げる機能

○人材育成・研修センター

最新の設備環境を備えた、まちづくりや多様なビジネス人材を育成する施設

○地場産業PRセンター

市内産業のPRと製品販売、地場産業体験施設

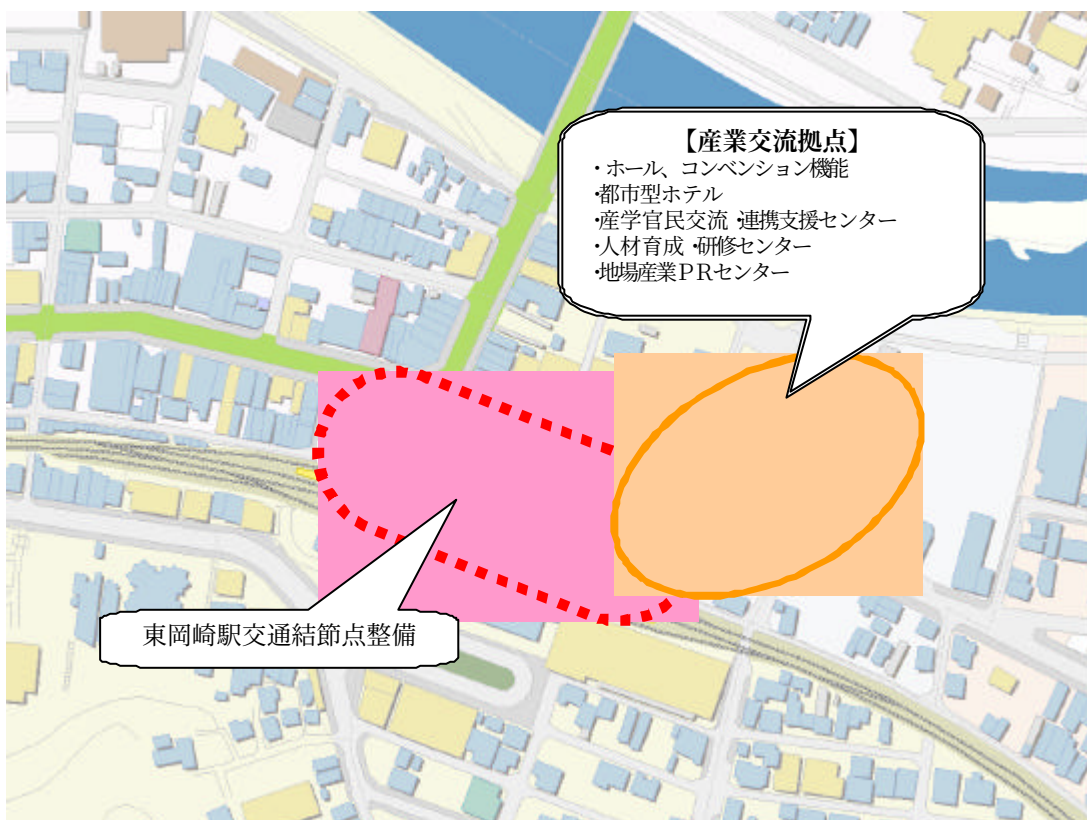
○都市型ホテル

観光客やハイグレードなビジネス客にも対応可能で、またバンケット機能を備えたホテル

【取り組み内容】

- ・東岡崎駅周辺の整備促進のための推進協議会を設立し、事業化に向けた検討を進める。
- ・推進協議会は中心市街地活性化協議会と連携し、実現に向けた活動を積極的に展開していく。

＜取り組みイメージ＞



②中心市街地活性化に向けた事業推進環境の整備と事業の実施

中心市街地活性化を円滑に進めるための中心市街地活性化基本計画の策定と事業推進母体の組成と事業推進体制の構築を図る。

【中心市街地活性化に向けた取り組み内容】

- ・ 東岡崎駅近接地への産業交流拠点施設の整備
- ・ 空店舗の活用による集客拠点整備や新規創業支援
- ・ ジャズストリートなどのイベントの継続開催
- ・ 集合住宅など居住機能の整備・供給
- ・ (仮称)図書館交流プラザをはじめとした公共機能の整備
- ・ 駐車場の再配置と高度利用システムの構築 など

【取り組み内容】

- ・ 岡崎市中心市街地活性化基本計画を策定する(平成 20 年度認定申請)。
- ・ 推進母体となる中心市街地活性化協議会を組成する。
- ・ 認定後の各種活性化事業を着実に推進する。

③公共交通体系の再構築

市内には鉄道、バスの公共交通網が整備されているが、名鉄東岡崎駅－JR 岡崎駅間など公共交通の相互連携の強化が必要なエリアもあることから、それらのエリアに新たな公共交通システムを導入することで、利便性の高い交通体系を構築する。

【取り組み内容】

- ・ 市役所、商工会議所、交通事業者、住民などからなる研究会を組成し、交通システム構築に向けた基本調査等を実施。
- ・ 研究会主導による新しい交通システム導入に向けた社会実験の実施および検証。
- ・ 市役所とともに、研究会での事業成果をもとに新しい交通システム導入に向けた関係機関への働きかけをおこなう。

4 リーディングプロジェクト④

「伝統と自然を活かした新しい魅力の創造」

(1) 目的と取り組みの概要

岡崎市は徳川家康生誕の地として、大樹寺や六所神社など由緒ある史跡や文化財、また八丁味噌、石材、花火、和ろうそくといった伝統産業や繊維などの地場産業、旧額田町の森林資源など多様な地域資源を有しているが、観光・交流資源としてそれらの十分な活用が図られているとは言い難い状況にある。

一方、今後、迎える人口減少局面において地域経済の維持・発展を目指すためには、人口の定住化とともに交流人口の拡大が求められることから、市内に立地する観光・交流資源を発掘し、有効活用を戦略的に図っていくことで、交流人口の拡大に資する岡崎市の新たな魅力を創造していく。

(2) 主な取り組み事業

①歴史的な景観の保全や街並み・文化拠点の整備

江戸時代には、岡崎宿は東海道有数の規模を誇る宿場町として栄え、二十七曲がりのまちとして知られていた。この欠町から伝馬通り、八帖町を経て矢作橋に至る「岡崎二十七曲がり」を、各所に歴史・文化の小拠点を配置するなどして長期的な歴史環境整備に取り組み、観光まちづくりの骨格とする。とくに八帖町の味噌蔵や趣のある街並み景観は岡崎市において重要な観光資源であり、また岡崎の歴史を後世に伝える場でもある。現在の歴史的景観が保全されるよう適切な措置を講ずるとともに、岡崎公園から八帖町に至る板屋町などにおいて城下町・宿場町の歴史を感じさせる街並み整備と商業機能の誘導などを行うことで、一帯の回遊性を高め、岡崎市の新たな観光資源として集客誘導を図る。

【取り組み内容】

- ・岡崎二十七曲がりの各所に現存する歴史資源（常夜燈、店舗、寺社等）の文化拠点としての整備活用を図るとともに、長期的な街並み整備に向けた検討を行う。
- ・八帖町の景観保全手法の検討を行い、適切な措置を講じる。
- ・板屋町などの区域における街並み整備に関し、地元住民、有識者、事業者などによる検討体制を構築し、事業化を目指す。

②体験型観光施設の整備

石工や花火、和ろうそくなどの伝統技能の見学と体験ができる観光施設を東岡崎駅近接地に整備する産業交流拠点内に整備する。岡崎市の新たな交流集客拠点の形成とともに

に、伝統産業の技能伝承と後継者育成に資することが期待される。

【取り組み内容】

- ・市役所、商工会議所、匠の会、市民からなる推進組織を組成し、施設概要や事業計画を策定し、実現に向けた活動を展開する。
(推進組織の組成にあたっては、岡崎市観光基本計画を進める組織の検討部会としての設置可能性も検証)
- ・施設用地は岡崎公園の活用、上記の板屋町周辺、別途整備実現を目指す東岡崎駅周辺の産業交流拠点等、幅広く検証する。

③既存の「食」の活用と新たな食文化の創造

「食」が地域のイメージに与える影響は大きく、優れた農産物を生産したり、料理を提供する地域は風土や気候が優れている印象を持たれることが多い。特にここ数年では、LOHAS やスローフードのように「食」に関する注目が集まっていることから、広域集客の素材として、地域の食材や食文化を活かした魅力ある「食」を地域住民や来街者に提供するとともに、新たな食文化の創造や食育に取り組む。

【取り組み内容】

- ・地産地消推進モデル事業企画検討会を母体とした推進体制を整備し、事業計画を策定、実施する。
- ・岡崎の名物となる新たなメニューの開発と展開を市内飲食店と連携して進める。
- ・市内小中学校と食品関連事業者、農業生産者が連携し、食育への取り組みを展開する。

④旧額田町地域の自然体験機能の整備

くらがり溪谷等の旧額田町地域の自然観光資源の更なる活用を図るとともに、エコツアーリズムの展開等により、岡崎の「自然」を活かした観光・レジャーメニューの充実を図る。

【取り組み内容】

- ・利用者アンケートや市民アンケートを通じた現状の問題点・課題の把握
- ・商工会議所、市役所が中心となり、整備計画を策定し、実施していく

【アクションプラン】 リーディングプロジェクト① ～産学官連携の推進による企業の高付加価値化支援と新産業の育成～

・目的と概要

労働集約型産業の地域外や東アジアへの移転が進む中、中小企業を中心とした地元企業の高付加価値化を図るための産学官連携を効率的かつ効果的に進めるための取り組みを展開する。また、繊維や食品などの地場産業や伝統産業の新たな事業展開を可能とする研究開発などに向けた支援や岡崎市の産業を支える人材育成などの支援体制の構築を図る。

事業名	概 要	主 体	期 間（※）	備考(課題など)
①大学との共同研究を支援する窓口機能の強化 【最重点プロジェクト】	地元企業と大学等との共同研究を推進するためのマッチング機能の整備・強化やサポート人材の育成等を行う。また、地域産業のニーズに応じた学科等の設立について、既存大学等に働きかけるとともに、新たな教育機能を産学協同で整備することも視野に検討を行う（商工会議所が受け皿となることも検討）。	行政、商工会議所、岡崎ものづくり推進協議会、岡崎大学懇話会、技術系大学・研究機関、中部TLO、民間事業者、金融機関など	【短期】 推進体制の整備、窓口機能の検討 【短期～中期】 計画に沿った事業の展開	・関係機関の相互連携 ・サポート人材育成に向けたプログラム開発
②地域資源を活用した新事業等創出のための試験・研究開発拠点機能の整備 【最重点プロジェクト】	伝統産業や地場産業の有する技術などを応用した新事業・新製品の開発などを推進する拠点機能（産学連携による技術開発・試験研究の場）を東岡崎駅近接地に整備する産業交流拠点内等に整備する。	行政、商工会議所、岡崎ものづくり推進協議会、岡崎大学懇話会、匠の会、民間事業者など	【短期】 施設整備等を含めた事業内容の検討と計画策定 【短期～中期】 計画に沿った事業の展開	・拠点整備等に係る事業資金の確保

※【短期】H19（2007）～22（2010）年度 【中期】H23（2011）～27（2015）年度 【長期】H28（2016）～32（2020）年度（以下同様）

③岡崎市の産業力を向上させる人材育成支援 【最重点プロジェクト】	雇用対策の推進と、外国人を含めた技術者人材の養成や育成を支援するための取り組みを展開する。	商工会議所、岡崎ものづくり推進協議会、岡崎地区外国人雇用管理推進協議会、教育機関、民間事業者 など	【短期】 事業体制の整備、カリキュラムの検討 ベンチャーやアントレプレナーなどへの支援制度の検討 【短期～中期】 計画に沿った事業の展開	・人材育成カリキュラムの開発 ・人材の養成・育成に適した指導者の確保・育成
④産学官民交流・連携機能の整備 【最重点プロジェクト】	大規模な異業種交流会、学会等が開催できるホール、コンベンション機能やそれら参加者・関係者が宿泊・滞在できる機能を東岡崎駅近接地に整備する産業交流拠点内へ整備する。 また、コンベンション誘致を推進する組織を併せて組成する。	行政、商工会議所、民間事業者、金融機関 など	【短期】 推進体制の整備、事業計画の検討 【短期～中期】 事業化に向けた活動の展開	・事業資金の確保 ・関係機関の協力体制の構築 ・事業用地の確保

【アクションプラン】リーディングプロジェクト② ～暮らしやすさの向上を図る都市の骨格づくり～

・目的と概要

岡崎市には東名高速道路や国道一号線など東西方向に基幹となる道路が複数横断しているが、南北方向は国道 248 号線など限られた状況にある。今後、第二東名高速道路と額田 I.C の整備が予定されており、南北方向を縦断する基幹道路の必要性、重要性が高まることから、南北方向を縦断する基幹道路の早期実現を目指した働きかけを行う。一方、東西方向の国道一号線を中心に慢性的な渋滞が発生し、産業活動や市民の日常生活に大きな影響を及ぼしていることから、早急な対応を図っていく。

また、額田町との合併により市域が拡大したことから、バランスのとれた都市構造を実現に向けた、用途規制の見直しなどを行う。

事業名	概 要	主 体	期 間	備考(課題など)
①南北幹線道路の整備 【最重点プロジェクト】	矢作川堤防上の道路整備についてスーパー堤防としての可能性の検討を行う。また、国道 473 号線の延伸や沿道開発、都市計画道路の整備など、南北方向の幹線道路の早期整備を推進する。	行政、商工会議所、 愛知県、国道事務所、 地権者 など	【短期】 推進母体となる協議 会の設立と関係機関 への働きかけ 【短期～中期】 整備計画作成と整備 事業着手	・ 該当路線の事業スケ ジュール ・ 関係機関、地権者な どの協力体制 ・ トヨタ自動車テストコ ースの建設構想 など
②国道一号線など渋滞箇 所の解消	国道一号線などの慢性的な渋滞解消に向け、渋滞箇所の地中化や立体交差化の推進、また自動車交通量の分散を分散させる矢作川への新たな架橋の整備などを推進する。	行政、商工会議所、 愛知県、国道事務所、 地権者 など	【短期】 渋滞箇所の調査、整備 区間の検討 【短期～中期】 事業化に向けた検討、 働きかけ	・ 該当区間の事業スケ ジュール ・ 関係機関、地権者な どの協力体制 など

③都市計画マスタープランの見直しによる適切な土地利用誘導	旧額田町における都市計画を早期に検討するとともに、工業、商業、住宅など市域全体の用途規制の見直しや、市街化調整区域の開発の弾力的な運用を推進することで、ゾーニングに基づくバランスのとれた都市構造の実現を図る。	行政、商工会議所・商工会 など	【短期】 都市計画マスタープランの見直し 【短期～中期】 土地利用誘導に着手	・県の用途規制見直しスケジュール
④豊田東 I C、額田 I C（仮称）周辺等への産業用地の開発 【最重点プロジェクト】	豊田東 I C 近接地域、第二東名額田 I C（仮称）周辺および国道 473 号線沿線などを候補地として、新産業立地や住工混在の解消を目的とした中小企業の立地対応のための産業用地の整備を検討する。	行政、商工会議所、地権者 など	【短期】 関係機関による協議会設立と事業化に向けた検討 【短期～中期】 整備計画作成と事業着手	・額田 I C（仮称）の整備時期 ・トヨタ自動車テストコース構想の動向 ・関係機関、地権者の協力体制
⑤快適な居住環境の提供	中心市街地における集合住宅の供給、周辺部の住工混在の緩和、道路や公共交通機能の整備、教育機関の誘致・整備などを総合的に推進し、「暮らしやすい岡崎」を実現する。	行政、岡崎商工会議所、民間事業者、地権者など	【短期～中期】 各事業の推進に関し、「住みやすい」という視点を導入するよう働きかける	

【アクションプラン】リーディングプロジェクト③ ～中心市街地活性化とまちの顔の再生～

・目的と概要

康生などの中心市街地においては、市民向け商業機能の充実とイベント開催による賑わいの回復に努めるとともに、公共交通の利便性向上や都市機能の集積、バリアフリー化など生活の場としての利便性を向上させることで定住化を促進し、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを進めていく。また、老朽化の進む名鉄東岡崎駅においては、バリアフリー化にあわせた駅舎の更新と周辺地域の再開発を行うことで岡崎のまちの顔として再生を図る。

事業名	概 要	主 体	期 間	備考(課題など)
①東岡崎駅周辺の整備促進と近接地への産業交流拠点の整備 【最重点プロジェクト】	岡崎市が検討を進める、駅へのアクセシビリティと利便性の向上を目的とした駅舎の橋上化を含む周辺整備と併せて、近接地への産業交流拠点整備を進めるなど、岡崎市の顔としての再生を図る。	行政、商工会議所、交通事業者(名鉄)、地権者、地域住民、まちづくり委員会など	【短期】 東岡崎駅および周辺の整備に向けた協議会の設立と事業化に向けた検討の実施 【短期～中期】 東岡崎駅舎のバリアフリー化事業への着手、産業交流拠点実現に向けた関係機関への働きかけ 【中期～長期】 産業交流拠点の整備	・行政、交通事業者、地権者、地元住民などの協力体制の構築 ・事業資金の確保

② 中心市街地活性化に向けた事業推進環境の整備と事業の実施	岡崎市が主体となる中心市街地活性化基本計画の策定に関与・支援するとともに、活性化に向け以下の事業等の実施促進を図る。 ・空店舗の活用による集客拠点整備や新規創業支援 ・ジャズストリートなどのイベントの継続開催 ・集合住宅など居住機能の整備・供給 ・(仮称)岡崎市図書館交流プラザをはじめとした公共機能の整備 ・駐車場の再配置と高度利用システムの構築 など	行政、岡崎商工会議所、商店街・商業者、民間事業者、市民、地権者、大学、まちづくり委員会など	【短期】 基本計画策定、認定申請 【短期～中期】 関連事業を順次展開	・基本計画の策定期間ならびに認定取得 ・推進主体の人材・資金確保 ・地権者等の協力体制確保
③ 公共交通体系の再構築	既存公共交通網の維持とともに、新たな公共交通システム（東岡崎駅と岡崎駅を結ぶ新たな交通システム、コミュニティ交通、デマンド交通など）などによる利便性の高い域内交通体系を構築する	行政、岡崎商工会議所、交通事業者、民間事業者、地域住民など	【短期】 交通システムなどの検討体制構築、基本調査の実施 【短期～中期】 導入に向けた検討、社会実験に向けた計画策定、社会実験の実施、本格運用に向けた検討 【中期～長期】 新交通体系の整備	・利用者の拡大 ・交通事業者との連携 ・新たな交通システム構築のための資金確保

【アクションプラン】リーディングプロジェクト④ ～伝統と自然を生かした新しい魅力の創造～

・目的と概要

岡崎市は徳川家康生誕の地として、由緒ある史跡や文化財、また八丁味噌や石材などの伝統産業、旧額田町の森林資源など多様な地域資源を有しているが、観光・交流資源として十分な活用が図られているとは言い難い状況にあることから、これら資源を有効活用することで新たな魅力を創造し、交流人口の拡大を図る。

事業名	概 要	主 体	期 間	備考(課題など)
①歴史的な景観の保全や街並み・文化拠点の整備 【最重点プロジェクト】	「岡崎二十七曲がり」の各所における景観・文化拠点の整備について検討を行う。とくに八帖町の歴史的景観が保全されるよう適切な措置を講ずるとともに、岡崎公園から八帖町に至る板屋町などにおいて城下町・宿場町の歴史を感じさせる街並み整備と商業機能の誘導などを行う。	行政、商工会議所、地元関係者、事業者等	【短期】 景観保全手法の検討、事業構想の策定 【短期～中期】 事業環境の整備、事業着手 【長期】 街並み整備への具体的取り組み	・地元関係者、地権者等の合意形成 ・事業者、事業資金の確保 ・観光需要の動向
②体験型観光施設の整備	岡崎市の伝統技能の見学と体験ができる観光施設を東岡崎駅近接地の産業交流拠点内へ整備する。	行政、商工会議所、匠の会、金融機関など	【短期】 推進体制の整備、事業計画の策定 【短期～中期】 事業着手	・事業資金の確保

③既存の「食」の活用と 新たな食文化の創造	地域の食材や食文化を活かし、地域住民や来街者に魅力ある「食」を提供するとともに、新たな食文化の創造に取り組む	商工会議所、行政、食品関連事業者、農業生産者、飲食店など	【短期】 食プロジェクト推進体制の整備、事業計画の策定、メニュー開発など	・生産者と事業者の連携 ・事業資金の確保 ・ニーズとのマッチング
④旧額田町地域の自然体験機能の整備	くらがり溪谷等、旧額田町地域の豊富な自然を観光資源として整備活用を図るとともに、エコツーリズムの展開等により、岡崎の「自然」を活かした観光・レジャーメニューの充実を図る。	商工会議所、行政、民間事業者など	【短期】 自然資源の洗い出し、現状の問題点の把握、推進体制の整備 【短期～中期】 自然体験機能の整備	・事業資金の確保

参考 統計データにみる岡崎市の現状

（１）地理的特性および市の沿革

岡崎市は愛知県の中央部に位置し、市内には矢作川、乙川の二つの河川が流れ、三河山地と岡崎平野の接点に位置している。また、国道一号線や東名高速道路など日本の基幹ともいえる道路が東西を横断している。

岡崎市は徳川家康生誕の地として知られているが、13世紀にはわが国の東西文化の要衝であり、既に三河の政治の中核地でもあった。その後、岡崎城を中心とした城下町、東海道を屈指の宿場町、川舟運行の湊町あるいは門前町として、中世から近世における都市の発展形態の多くの側面を有し、成長してきた。

大正5年7月1日、愛知県下で3番目、全国で67番目に市制を施行し、平成15年4月1日には中核市に移行、平成18年1月1日には額田町と合併を行っている。

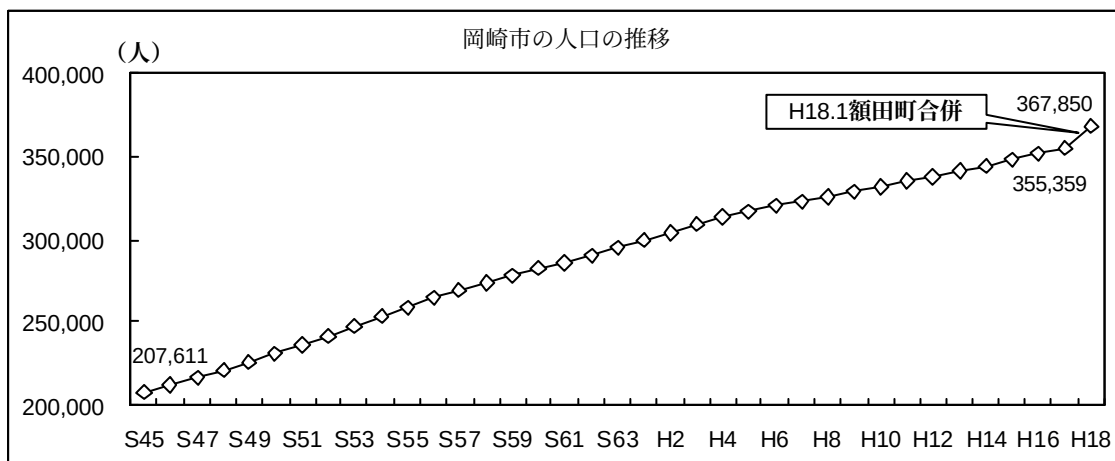
（２）人口

岡崎市の人口は増加基調にある。平成18年1月の額田町との合併により平成18年の人口は、平成17年の355,359人から約1.2万人増の367,850人となっている。65歳以上の高齢者人口の割合は全国、愛知県に比べて低いものの、その割合は年々増加し高齢社会が着実に進行していることがうかがえる。

一方、通勤・通学による岡崎市の流出入人口をみると、名古屋市、豊田市、西尾市、幸田町への流出超過がみられ、昼夜間人口比は1.0未満となっていることから、業務地よりも居住地としての性格が強い都市といえる。

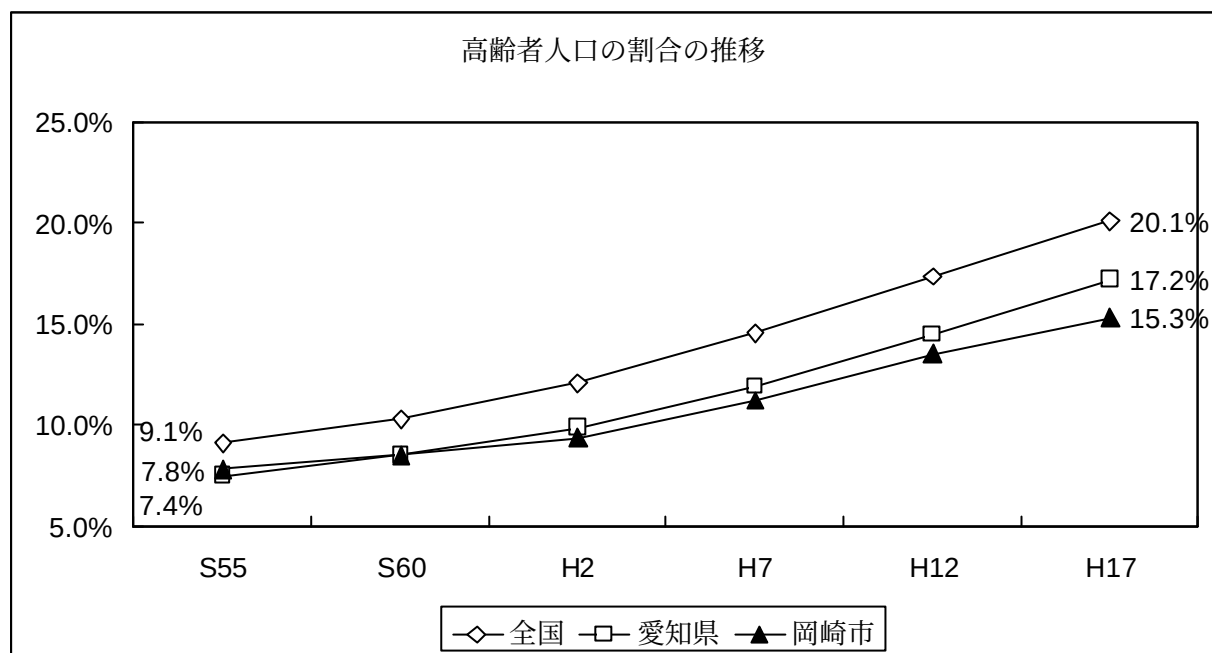
合計特殊出生率については、全国、愛知県に比べて高い傾向にあり、将来人口も全国の人口が2005年より減少へと転じているのに対し、岡崎市の推計では2025年をピークに減少へ転じると予測され、高齢者人口の占める割合も低いことから、人口減少、高齢化の進展は全国に比べて緩やかに進むことが予測される。

○人口の推移



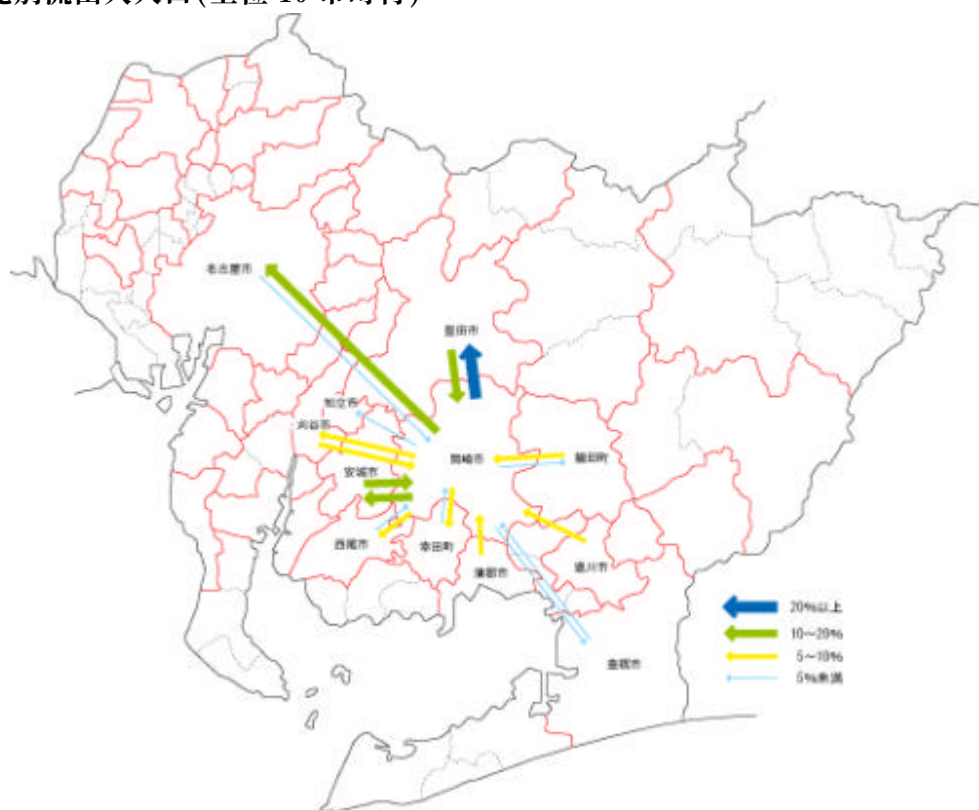
各年4月1日現在 資料：平成17年版岡崎市統計書

○高齢者人口の割合の推移



※旧額田町は含まない 資料：国勢調査

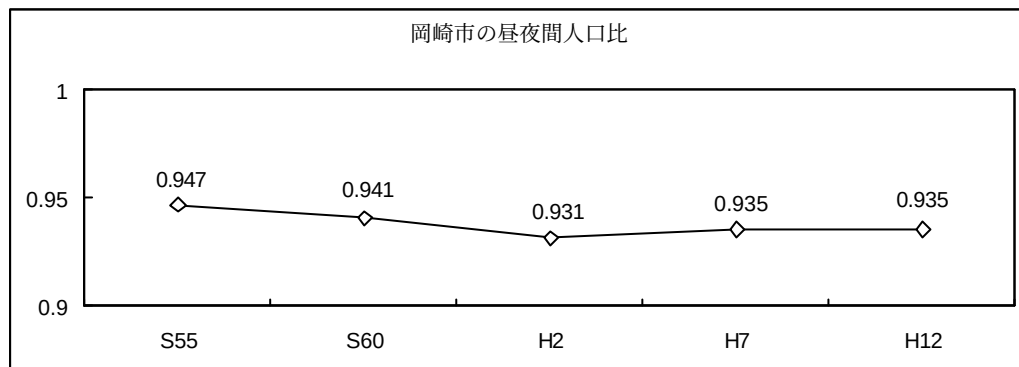
○構成比別流出入人口(上位 10 市町村)



※平成 12 年国勢調査をもとに作成
 ※市町村は平成 12 年 10 月 1 日時点のもの

(出所)平成 17 年版岡崎市統計書

○岡崎市の昼夜間人口比



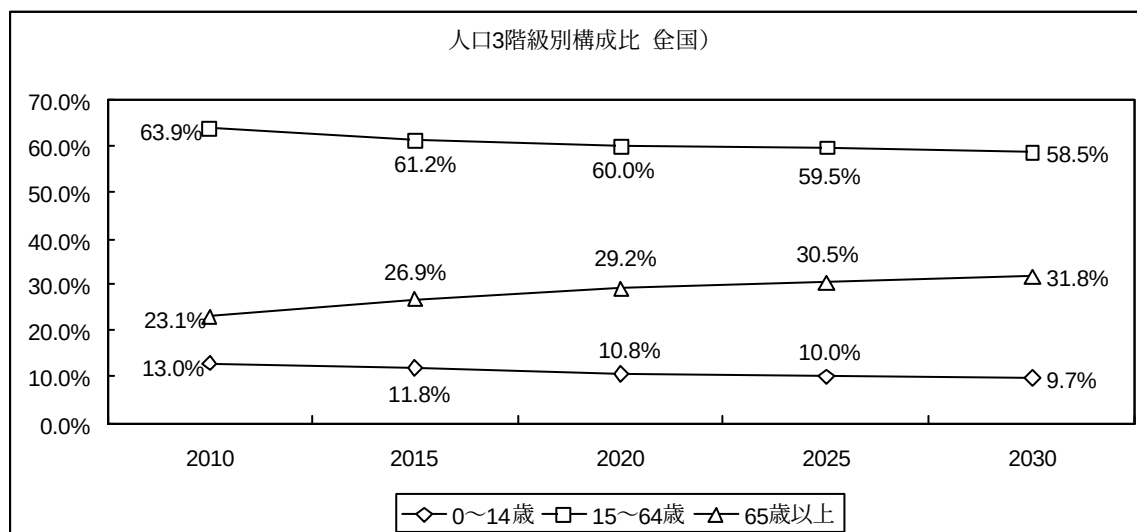
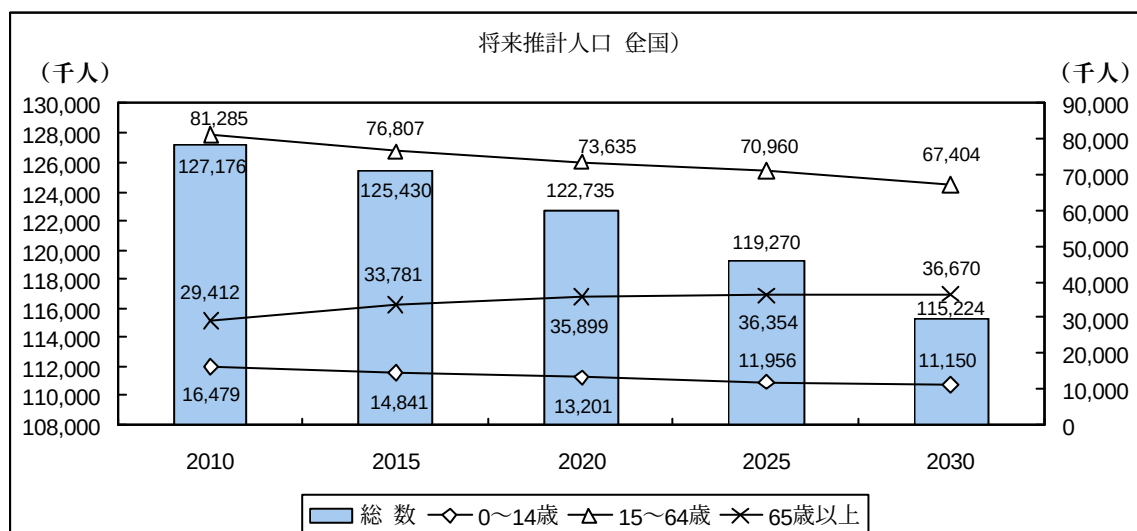
※旧額田町は含まない 資料：国勢調査

○合計特殊出生率の推移

	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年
全 国	1.36	1.33	1.32	1.29	1.29	1.25
愛知県	1.44	1.36	1.34	1.32	1.34	1.30
岡崎市	1.51	1.50	1.51	1.46	1.47	1.46

※平成 17 年は概数値，旧額田町は含まない 資料：岡崎市保健所

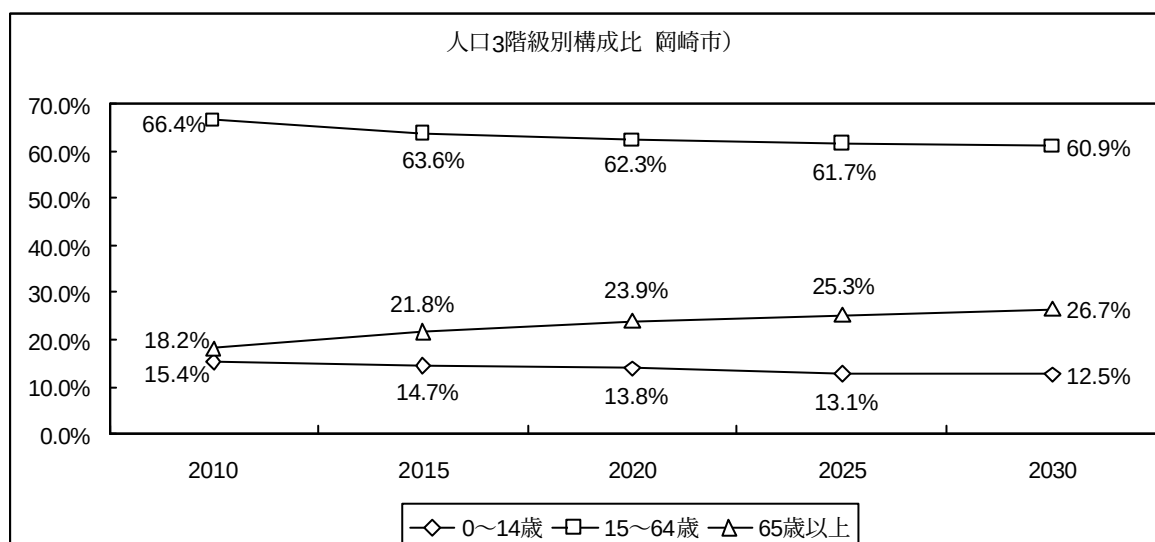
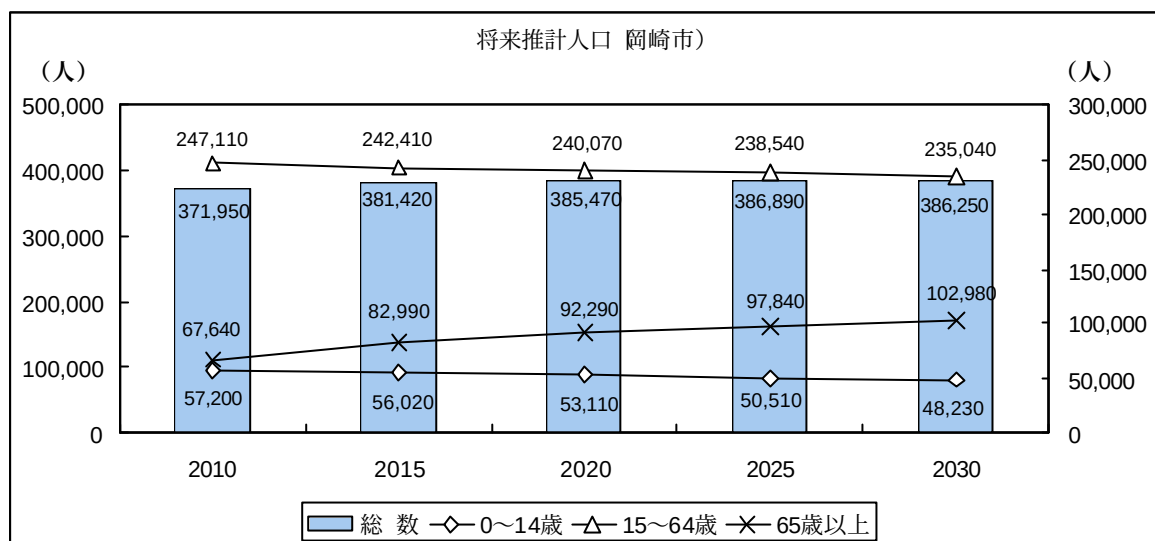
○将来推計人口と人口構成比（全国）



※出生中位（死亡中位）推計

資料：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ

○将来推計人口と人口構成比（岡崎市）



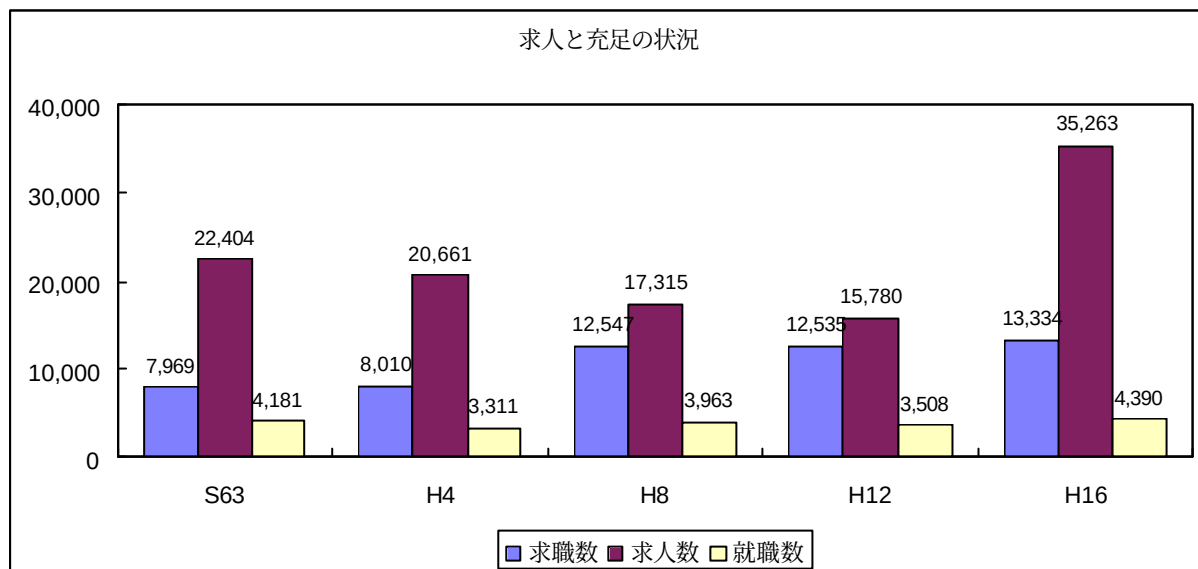
※旧額田町を含む
 ※平成16年11月推計

資料：岡崎市資料

(3) 雇用環境

平成 12 年まで求人数は減少していたものの、昭和 63 年以降、求人数が求職数を上回っており、雇用環境は比較的安定している状況にある。

○求人と充足の状況

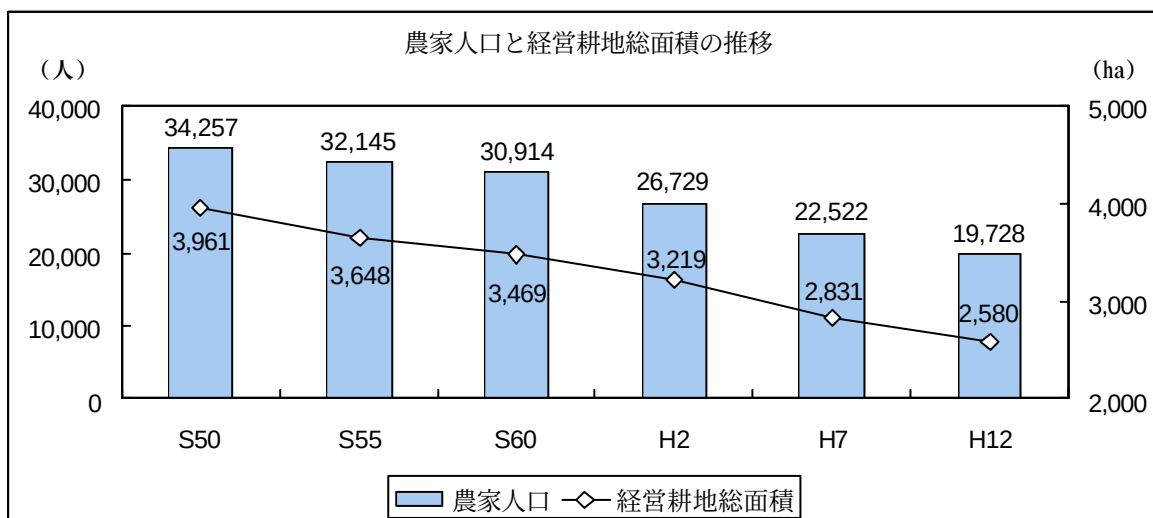


※旧額田町は含まない 資料：平成 17 年版岡崎市統計書

(4) 農業

岡崎市の農家人口は減少傾向にあり、昭和 50 年の 34,257 人から平成 12 年で 19,728 人まで減少している。また、経営耕地総面積も減少しており、昭和 50 年の 3,961ha から平成 12 年で 2,580ha となっている。これより岡崎市の産業に占める農業の割合は年々減少している状況にある。

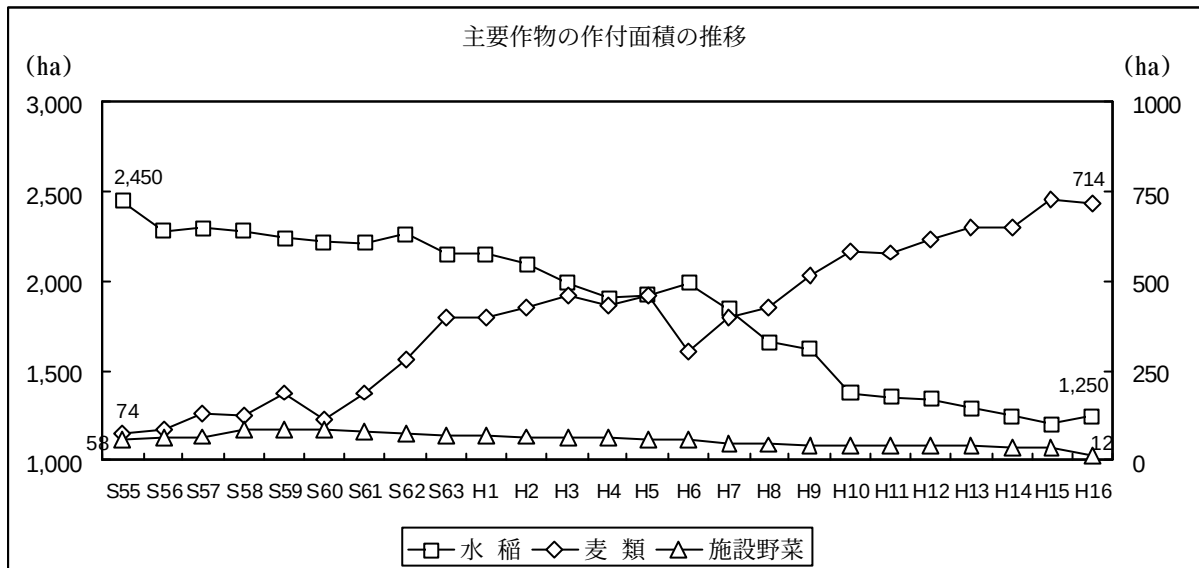
○総農家数と経営耕地総面積の推移



※平成 2 年より調査対象基準の変更があった
※旧額田町は含まない 資料：農業センサス

昭和 55 年から平成 16 年にかけて水稲が 2,450ha から 1,250ha と半減しているのに対し、麦類が 74ha から 714ha と大幅に増加していることから、水稲作から畑作への転換が進んでいることがうかがえる。

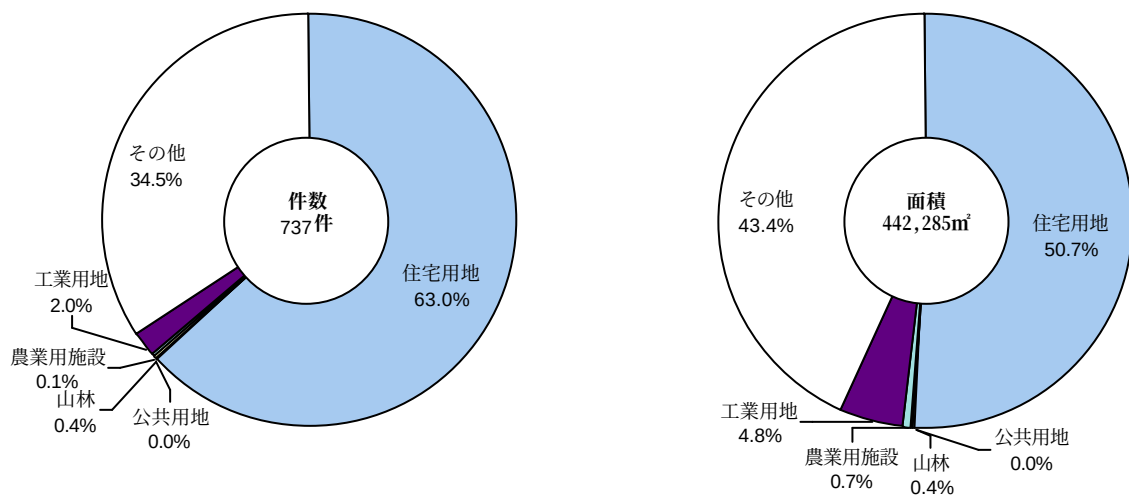
○主要作付面積の推移



※旧額田町は含まない 資料：愛知県農林水産統計

農地転用状況をみると、平成 17 年では、住宅用地への転用が件数で約 6 割、面積でも約 5 割を占め、住宅用地への転用が主となっている。

○農地転用状況（平成 17 年）



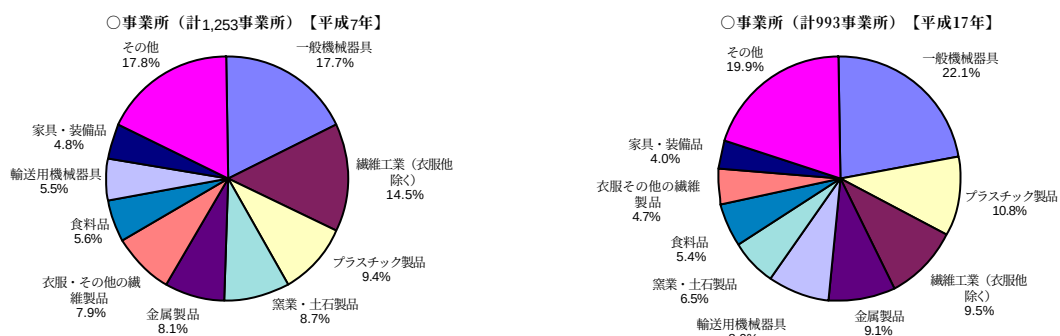
※旧額田町は含まない 資料：岡崎市農業委員会

(5) 工業

岡崎市の製造業の事業所数は減少傾向にあり、周辺都市においても同様の傾向にある。なお、業種別構成比をみると、地場産業である繊維工業の割合が大きく減少している。

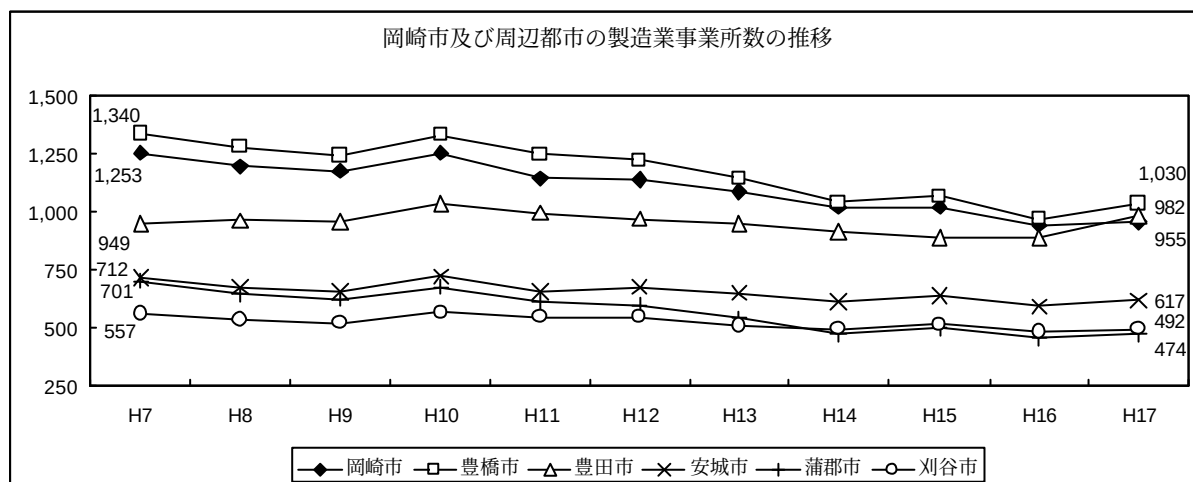
一方、従業者数はほぼ横ばいの傾向が続いており、周辺都市においても同様の傾向にある。

○事業所の業種別構成比



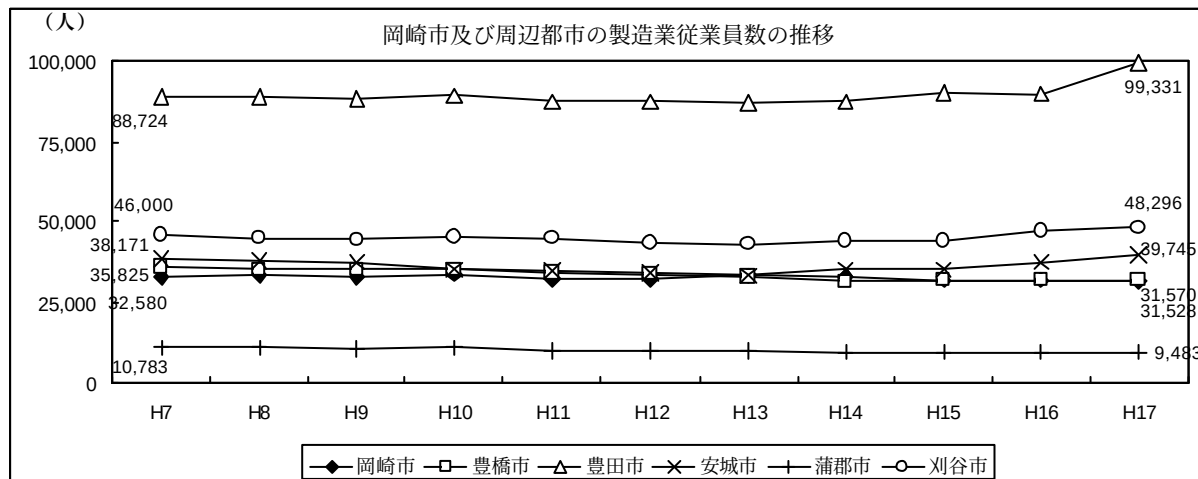
※旧額田町は含まない 資料：工業統計

○岡崎市および周辺都市の製造業事業所数の推移



※旧額田町は含まない 資料：工業統計

○岡崎市および周辺都市の製造業従業員数の推移

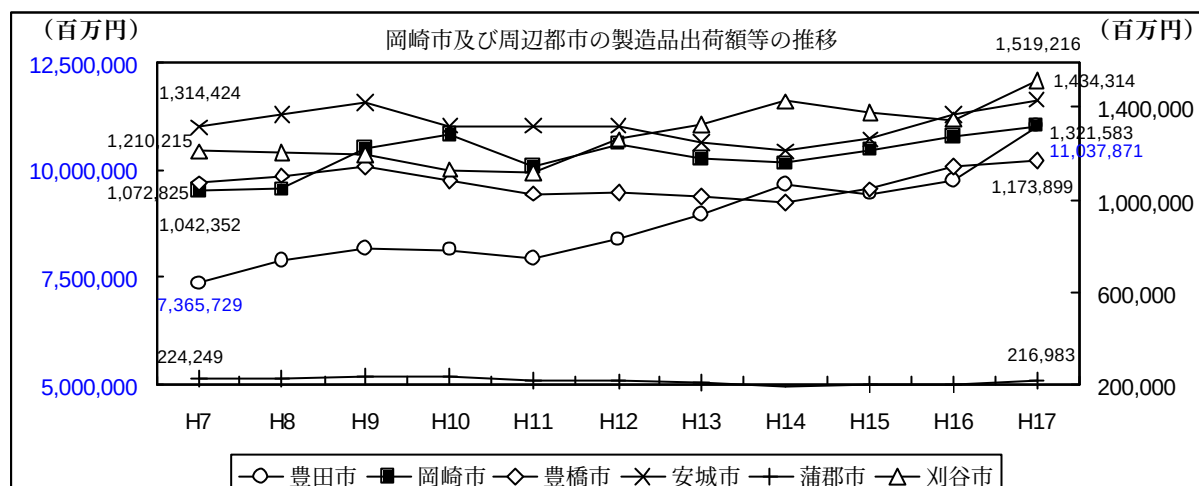


※旧額田町は含まない 資料：工業統計

岡崎市の製造品出荷額等は増加傾向にあり、平成17年には1,321,583百万円となっている。周辺都市については、蒲郡市でほぼ横ばいの傾向にあるものの、その他は増加傾向にあり、特に豊田市で大きく増加している。

一方、岡崎市の製造品出荷額等の業種別構成比をみると、輸送用機械器具製造業の占める割合が大きくなっており、平成17年で48.5%と約半数を占めている。

○岡崎市および周辺都市の製造品出荷額等の推移

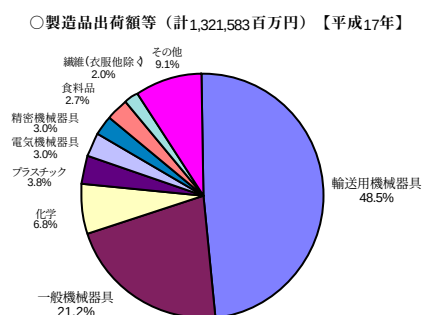
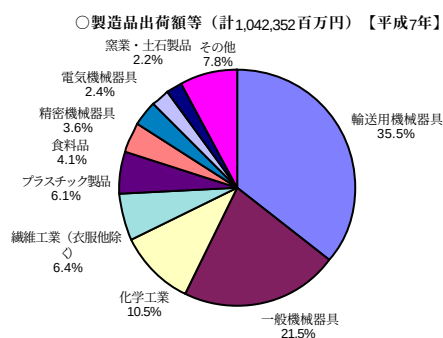


※旧額田町は含まない

※縦軸左は豊田市、縦軸右は岡崎市など豊田市以外の数値を示す

資料：工業統計

○製造品出荷額等の業種別構成比

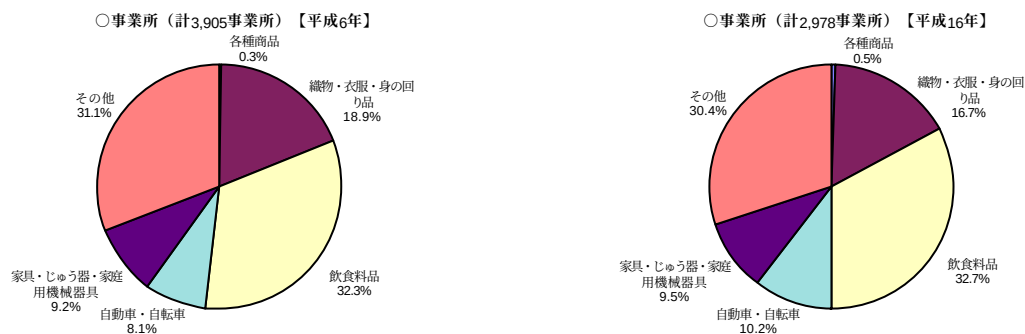


※旧額田町は含まない 資料：工業統計

（６）商業

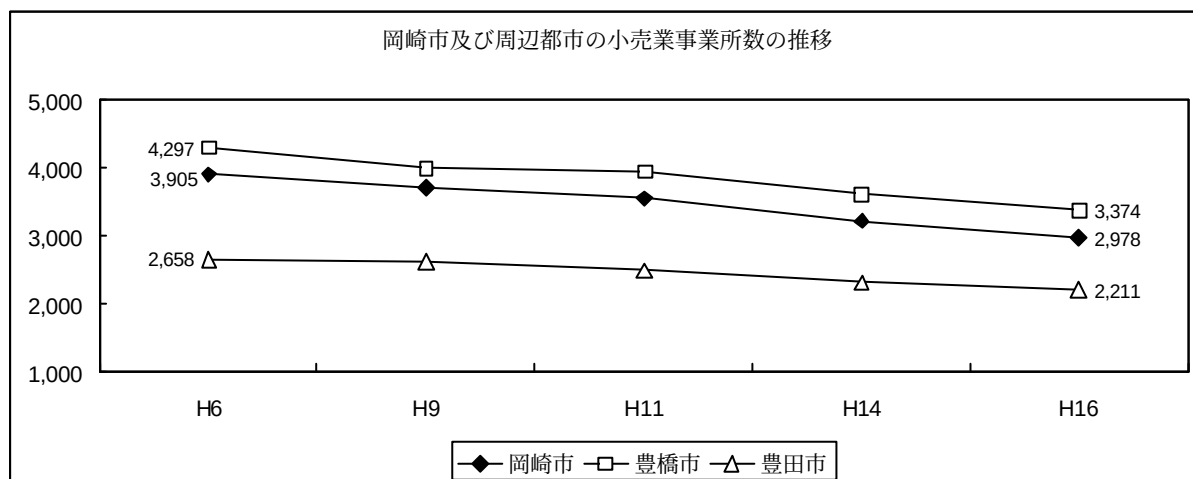
岡崎市の小売業の事業所数は周辺都市同様、減少傾向にあり、平成６年から平成１６年の１０年間にかけて約１,０００事業所減となっている。なお、事業所の業種構成についてはあまり変化がみられない。一方、従業者数についてはほぼ横ばいの傾向が続いており、周辺都市も同様の傾向にある。

○小売業事業所の業種別構成比



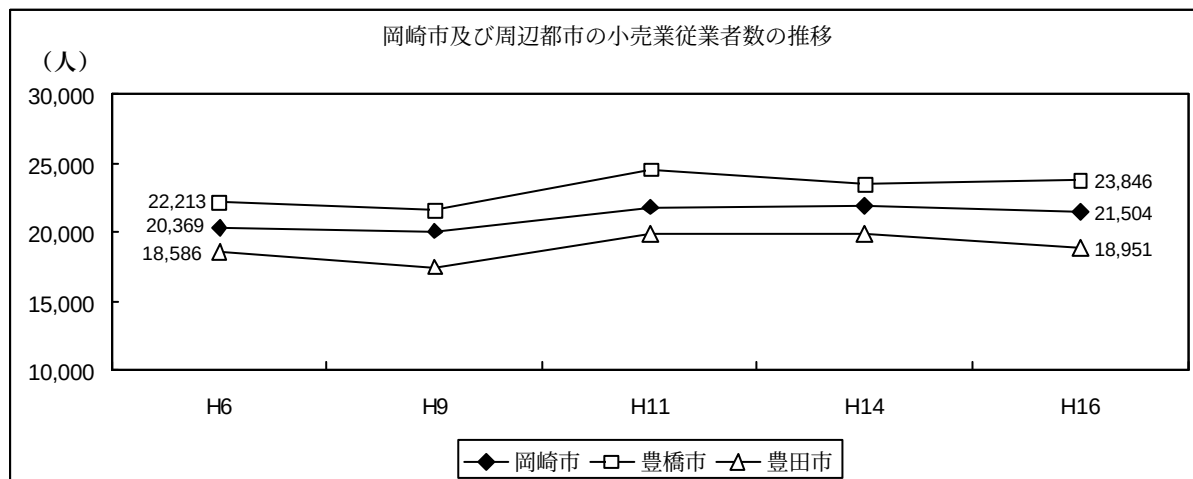
※旧額田町は含まない 資料：商業統計

○岡崎市および周辺都市の小売業事業所数の推移



※旧額田町は含まない 資料：商業統計

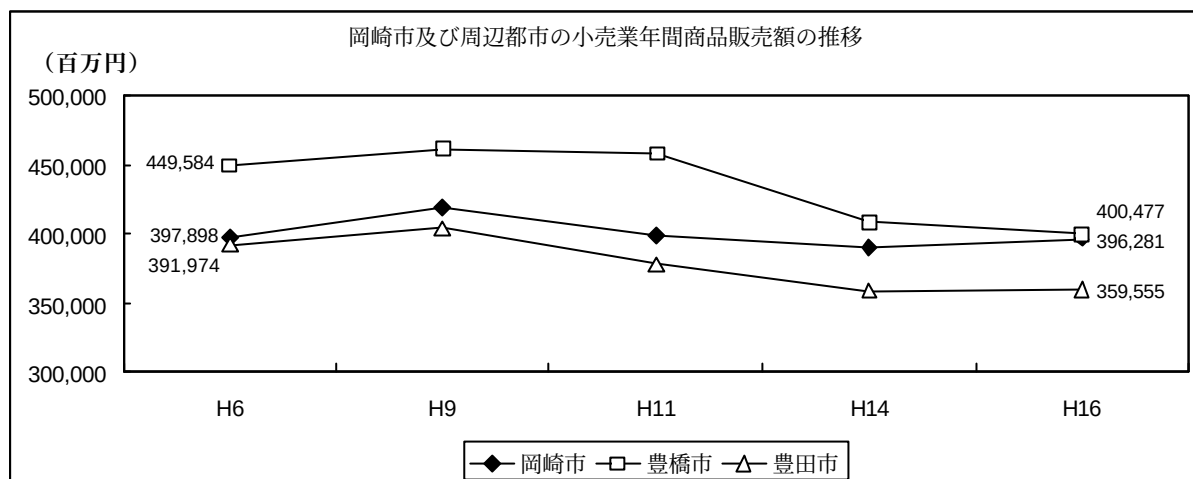
○岡崎市および周辺都市の小売業従業者数の推移



※旧額田町は含まない 資料：商業統計

岡崎市の小売業年間商品販売額は、平成 16 年で 396,281 百万円とほぼ横ばいの傾向にある。一方、周辺都市は減少傾向となっている。業種別構成比をみると、各種商品小売業が平成 6 年の 7.8%から平成 16 年には 13.8%とその割合が増加している。

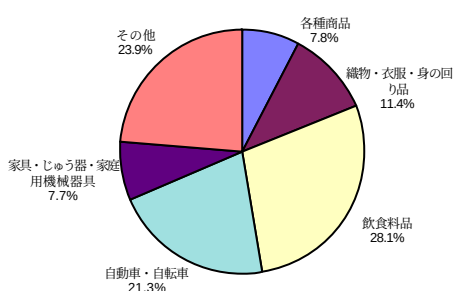
○岡崎市および周辺都市の小売業年間商品販売額の推移



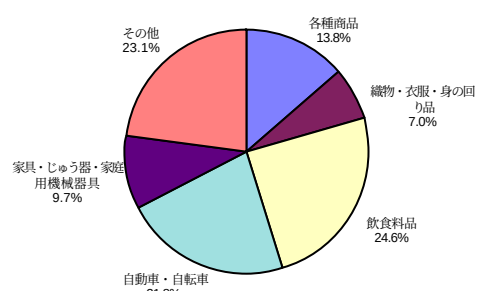
※旧額田町は含まない 資料：商業統計

○小売業年間商品販売額の業種別構成比

○年間商品販売額（計397,898百万円）【平成6年】



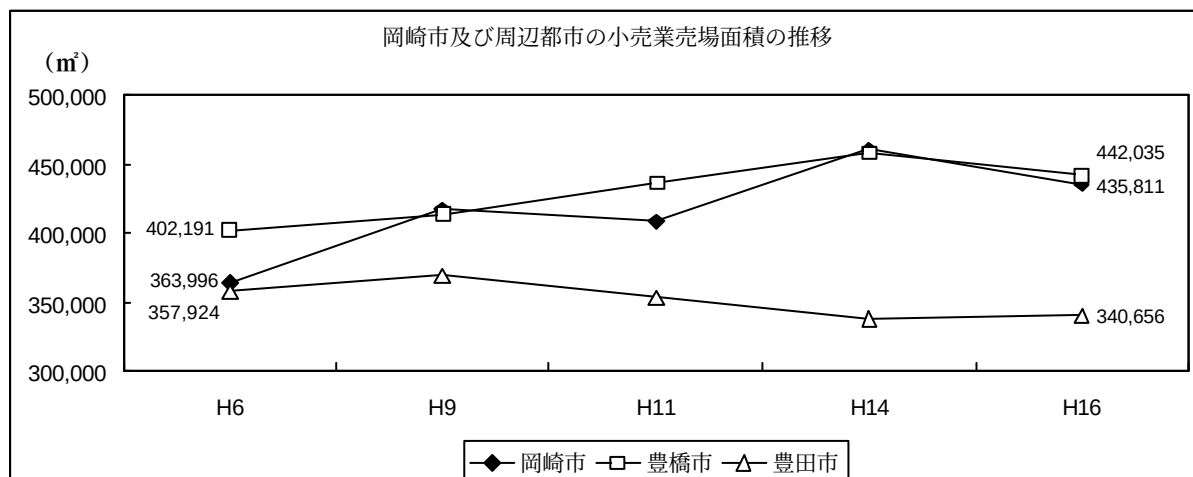
○年間商品販売額（計396,280百万円）【平成16年】



※旧額田町は含まない 資料：商業統計

岡崎市の売場面積は増加傾向にあり、平成 16 年で 435,811 m²となっている。周辺都市の豊田市も同様に増加傾向にあるが、豊橋市は減少傾向となっている。

○岡崎市および周辺都市の小売業売場面積の推移



※旧額田町は含まない 資料：商業統計

○岡崎市民の買物場所

康生・本町地区や東岡崎駅周辺地区の吸引力が低下している。一方、ロードサイドショップが立地する国道 248 号沿線の吸引力が増加している。

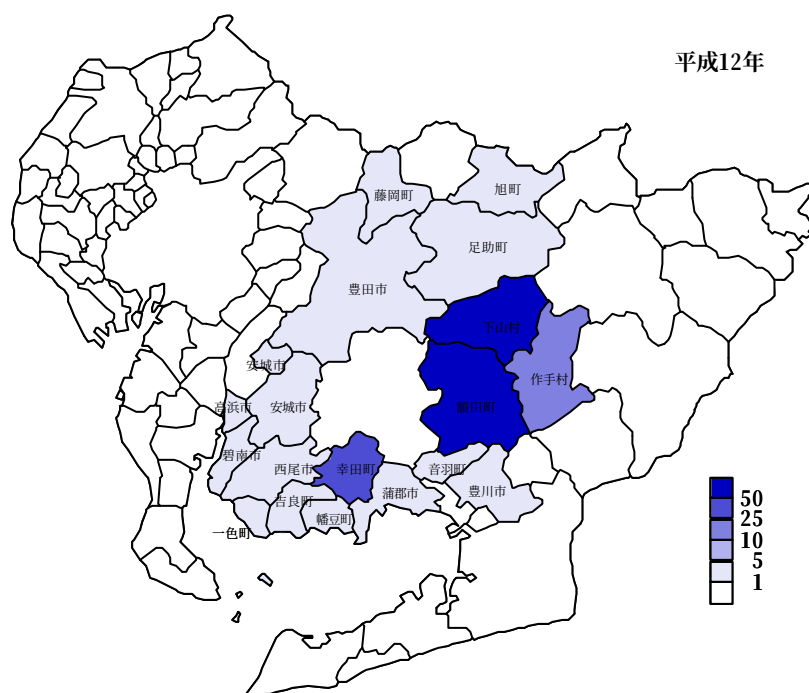
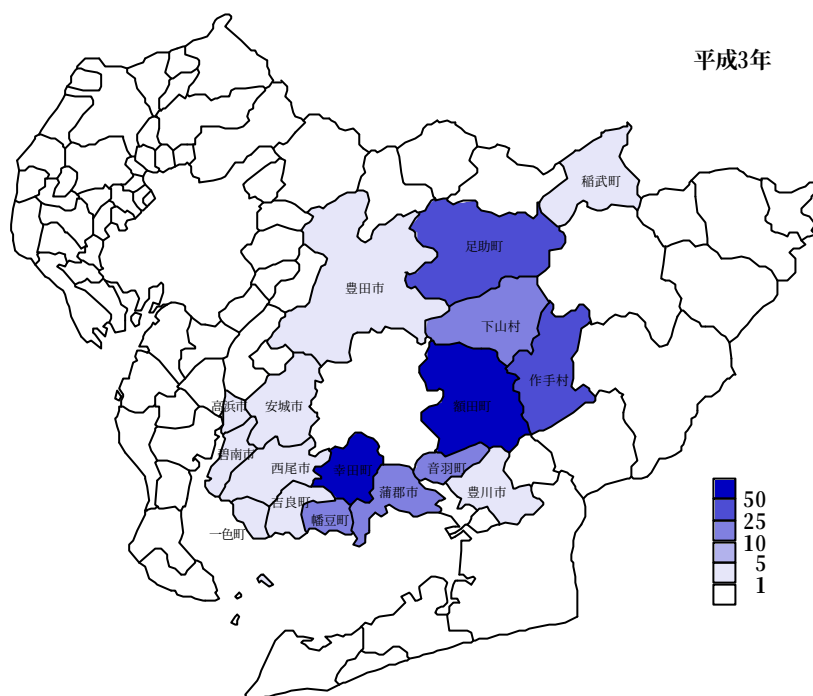
区 分			品 目 別										買 回 品	紳 士 服	婦 人 服	レ ジ ヤ ー 用 品	電 気 製 品	準 買 回 品	下 着	園 芸 用 品	化 粧 品	最 寄 品	台 所 用 品	日 常 食 料 品	贈 答 品	総 合
買 物 場 所	市	康 生 ・ 本 町	18.2 7.0	21.5 9.0	33.2 15.6	5.3 1.2	3.5 2.2	12.7 3.1	18.2 4.3	— 0.6	7.2 4.5	3.6 1.6	4.2 1.2	2.9 1.9	43.5 31.4	— 7.2										
		東 岡 崎 駅 周 辺	1.8 1.2	1.8 1.7	2.7 2.1	1.2 0.7	1.1 0.4	2.7 1.5	3.1 2.2	— 0.5	2.4 1.8	2.5 1.0	3.0 1.3	2.0 0.7	1.2 0.9	— 1.2										
		美 合 駅 周 辺	1.0 0.4	0.4 0.3	0.5 0.3	0.5 —	2.7 1.2	1.9 1.0	1.8 1.0	— 0.1	1.9 1.9	3.2 1.6	3.0 1.5	3.4 1.6	0.3 0.5	— 0.8										
		JR 岡 崎 駅 周 辺	1.1 1.7	0.8 1.9	1.5 2.1	0.6 1.0	1.6 1.8	1.3 1.8	1.5 1.6	— 1.5	1.2 2.2	3.1 2.6	2.3 1.6	3.9 3.5	0.7 1.3	— 1.9										
		国 道 248 号 沿 線 (1 号 線 より 北)	19.1 20.7	17.9 21.0	7.8 8.0	38.0 32.4	18.4 21.4	9.8 12.0	10.2 10.7	— 17.0	9.4 8.3	14.1 14.3	15.0 14.7	13.1 13.9	7.9 7.7	— 15.5										
		国 道 248 号 沿 線 (1 号 線 より 南)	23.1 28.4	23.1 31.8	19.8 33.7	25.9 19.1	27.5 28.9	17.4 21.9	22.4 35.9	— 13.9	11.7 15.5	19.2 21.6	21.6 25.5	17.0 17.8	13.9 23.6	— 24.6										
		東名岡崎インター・洞町周辺	— 9.8	— 4.4	— 3.0	— 19.5	— 12.3	— 9.6	— 5.9	— 19.6	— 2.9	— 9.3	— 10.4	— 8.3	— 2.3	— 8.9										
		ユーストラ上和田店及びその周	6.0 4.8	7.0 4.8	7.4 6.7	5.0 4.5	3.3 3.3	9.2 6.8	12.2 9.6	— 6.8	6.2 3.9	11.3 9.6	12.6 9.9	10.0 9.3	5.1 5.0	— 6.4										
		上 記 以 外 の 地 元 中 学 校 区	7.5 7.0	4.0 4.1	3.9 4.5	5.8 7.2	17.3 12.3	16.6 14.7	10.3 10.1	— 14.6	23.0 19.6	25.3 21.4	20.1 17.2	30.6 25.6	4.1 5.9	— 12.1										
		そ の 他 市 内	9.5 9.1	7.9 7.8	6.5 7.8	11.0 8.6	14.7 12.1	13.6 14.5	8.7 9.7	— 14.4	18.6 19.6	12.4 12.6	11.8 11.1	12.8 14.0	8.7 7.1	— 11.2										
	市 内 合 計	87.3 90.1	84.4 86.9	83.3 83.7	93.3 94.2	90.1 95.7	85.2 86.8	88.4 91.0	— 88.9	81.6 80.2	94.7 95.5	93.6 94.5	95.7 96.6	85.4 85.7	— 89.8											
	外	名 古 屋 市	3.0 2.4	5.0 4.2	4.1 4.9	0.6 0.5	0.6 0.2	1.1 0.8	0.4 0.6	— 0.1	1.8 1.8	0.1 0.1	0.2 0.2	— 3.3	2.7 1.6	— 1.6										
		豊 橋 市	0.3 0.2	0.4 0.3	0.5 0.4	0.1 —	0.1 0.1	0.2 0.2	0.1 0.3	— —	0.4 0.2	— 0.0	— 0.1	0.1 0.3	0.1 —	— 0.2										
		豊 田 市	3.2 2.8	3.7 3.9	4.1 4.0	1.6 1.9	3.2 1.4	2.6 2.7	2.6 2.4	— 2.9	2.7 2.9	1.6 1.9	2.1 2.5	1.0 1.3	5.6 6.3	— 2.9										
		安 城 市	2.9 2.4	3.1 2.4	3.4 3.9	2.3 2.2	2.9 1.4	2.5 2.1	2.8 2.7	— 1.8	2.1 1.9	2.1 1.7	2.2 2.1	1.9 1.3	2.8 2.4	— 2.2										
		西 尾 市	1.6 0.9	1.8 0.9	1.9 1.1	1.4 0.9	1.2 0.5	1.0 1.0	1.3 0.6	— 1.5	0.7 1.0	0.7 0.4	0.9 0.5	0.6 0.2	1.5 0.7	— 0.8										
		刈 谷 市	0.1 0.1	0.1 0.2	0.1 —	0.1 —	0.2 0.2	0.1 0.0	0.1 —	— —	0.2 0.1	0.1 0.1	0.1 0.1	0.2 —	0.2 0.1	— 0.1										
		知 立 市	0.3 0.1	0.2 0.3	0.3 0.2	0.1 —	0.8 0.1	— 0.0	— —	— —	0.1 0.1	0.1 0.0	0.2 0.1	— —	0.3 0.1	— 0.1										
		蒲 郡 市	0.1 0.0	— 0.1	0.1 —	— —	0.2 —	0.1 0.1	— 0.2	— 0.2	0.2 0.2	— —	— —	— 0.1	0.1 0.1	— 0.1										
		そ の 他 市 外	1.2 0.9	1.3 1.0	2.2 1.7	0.5 0.4	0.7 0.5	7.2 6.1	4.3 2.4	— 4.7	10.2 11.6	0.6 0.3	0.7 0.2	0.5 0.4	1.3 1.1	— 2.3										
市 外 合 計		12.7 9.9	15.6 13.1	16.7 16.3	6.7 5.8	9.9 4.3	14.8 13.2	11.6 9.0	— 11.1	18.4 19.8	5.3 4.5	6.4 5.5	4.3 3.4	14.6 14.3	— 10.2											

※上段が平成 9 年、下段が平成 12 年

資料：消費者購買動向調査結果報告書（三河部における動向）

○岡崎市の買回品商圈

平成3年から平成12年にかけて岡崎市の買回品商圈は縮小傾向にあり、岡崎市商業の吸引力の低下がみられる。



※市町村区分は平成12年10月時点

資料：消費者購買動向調査結果報告書（三河部における動向）

(7) 観光

年度ごとに客数の変動がみられるが、三河武士のやかた家康館や大樹寺、六所神社での入り込み客数が減少している。

○岡崎市主要観光施設の入込客数の推移

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
岡崎公園	1,389,800	1,496,500	1,480,550	1,148,150	1,115,191	949,200	1,271,300
東公園	232,749	272,450	285,975	307,980	339,600	314,340	301,850
南公園	315,092	314,190	353,351	352,540	373,528	403,900	363,400
岡崎城	167,027	202,162	156,108	135,397	128,862	130,277	125,248
三河武士のやかた家康館	113,017	157,127	106,958	89,505	82,394	83,850	57,597
大樹寺	48,000	51,210	26,666	24,153	21,081	19,842	14,269
六所神社	162,900	165,900	154,500	173,300	77,000	68,000	52,500
岩津天満宮	330,800	338,000	339,000	350,000	370,000	350,000	351,000
駒立ぶどう園	38,132	41,620	43,000	43,000	38,000	41,000	43,000
国民宿舎桑谷山荘	29,728	31,425	30,410	50,538	48,436	54,748	16,644
岡崎地域文化広場	138,188	130,822	115,503	163,512	188,237	160,400	148,962
岡崎観光夏まつり	410,000	430,000	597,000	612,000	600,000	600,000	610,000
本宮山スカイライン	96,437	93,936	34,423	—	67,428	62,478	—
くらがり溪谷	96,260	105,800	101,650	91,130	82,450	111,100	113,200
額田ゴルフ倶楽部	76,161	66,341	71,484	64,467	59,830	59,965	55,469
愛知県野外教育センター	18,018	19,487	20,398	—	21,170	20,524	21,687
天恩寺	10,000	10,000	10,000	—	10,000	10,000	—
サン・ベルグ・ラビ・アカントリ倶楽部	—	—	—	—	35,579	40,302	41,160

資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計資料

岡崎市の宿泊客数は平成16年に一旦落ち込んでいるものの増加傾向にある。一方、外国人宿泊客については、平成13年を境に減少傾向となっている。

周辺都市においては、名古屋市での宿泊客数が外国人を含めて圧倒的に多く増加傾向にあるが、豊田市でも宿泊客数が外国人を含めて増加している。

○岡崎市および周辺都市の宿泊客数の推移

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
岡崎市	96,727	105,805	136,992	125,616	160,576	93,503	171,660
名古屋市	3,723,495	3,755,455	5,216,699	5,203,660	5,514,738	5,738,330	7,135,833
刈谷市	154,429	161,849	115,436	82,510	119,568	83,742	46,207
安城市	73,860	98,439	103,694	126,508	61,144	99,804	55,683
知立市	31,010	39,994	40,038	44,613	43,838	43,433	57,400
豊田市	318,188	217,586	232,453	200,245	272,124	515,149	595,224

※旧額田町は含まない 資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計資料

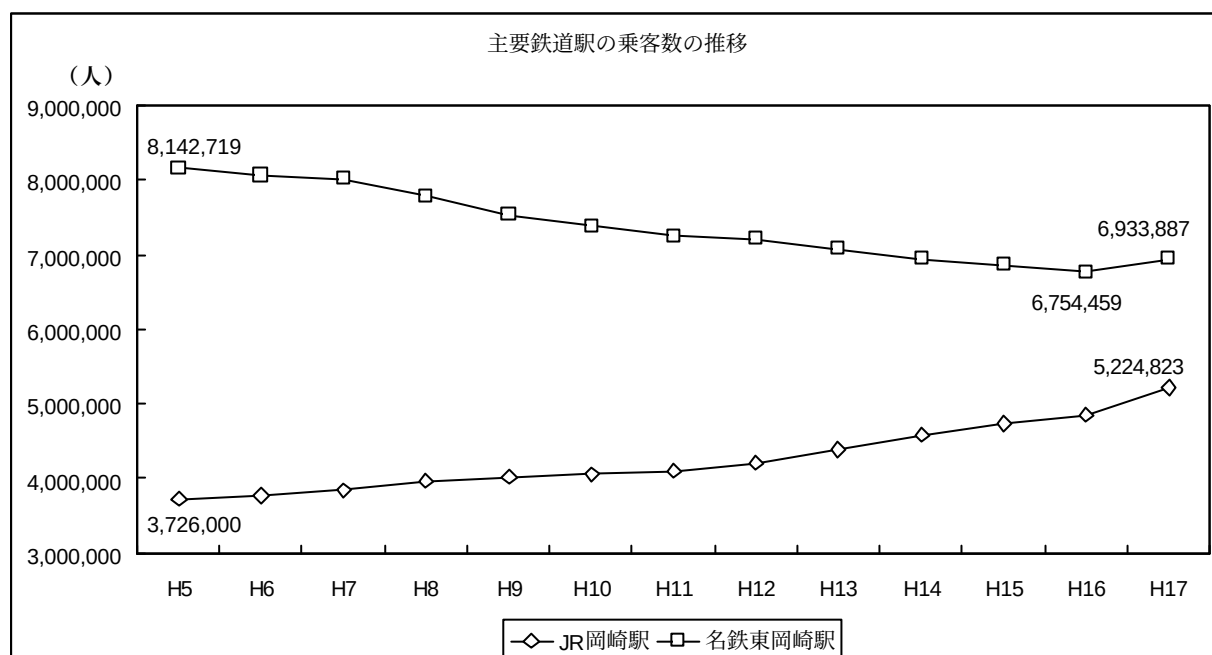
○岡崎市および周辺都市の外国人宿泊客数の推移

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
岡崎市	5,646	5,464	6,560	6,540	1,888	3,376	3,586
名古屋市	165,106	209,145	292,067	547,150	420,207	528,769	671,905
刈谷市	5,331	3,994	3,858	2,322	6,310	1,427	1,010
安城市	987	3,119	3,937	11,112	4,330	8,480	2,338
知立市	5,396	7,768	1,996	1,942	8,543	1,896	10,204
豊田市	13,917	16,589	20,710	21,894	20,734	34,350	36,185

※旧額田町は含まない 資料：愛知県観光レクリエーション利用者統計資料

（８）交通

岡崎市内の主要鉄道駅である名鉄東岡崎駅とＪＲ岡崎駅の乗客数の推移をみると、名鉄東岡崎駅の乗客数は減少傾向にあり、平成 16 年で 6,754,459 人となっているが、愛・地球博の開催された平成 17 年は若干持ち直し、6,933,887 人となっている。一方、ＪＲ岡崎駅の乗客数は年々増加しており、平成 17 年で 5,224,823 人となっている。



資料：岡崎市統計書、愛知県統計年鑑

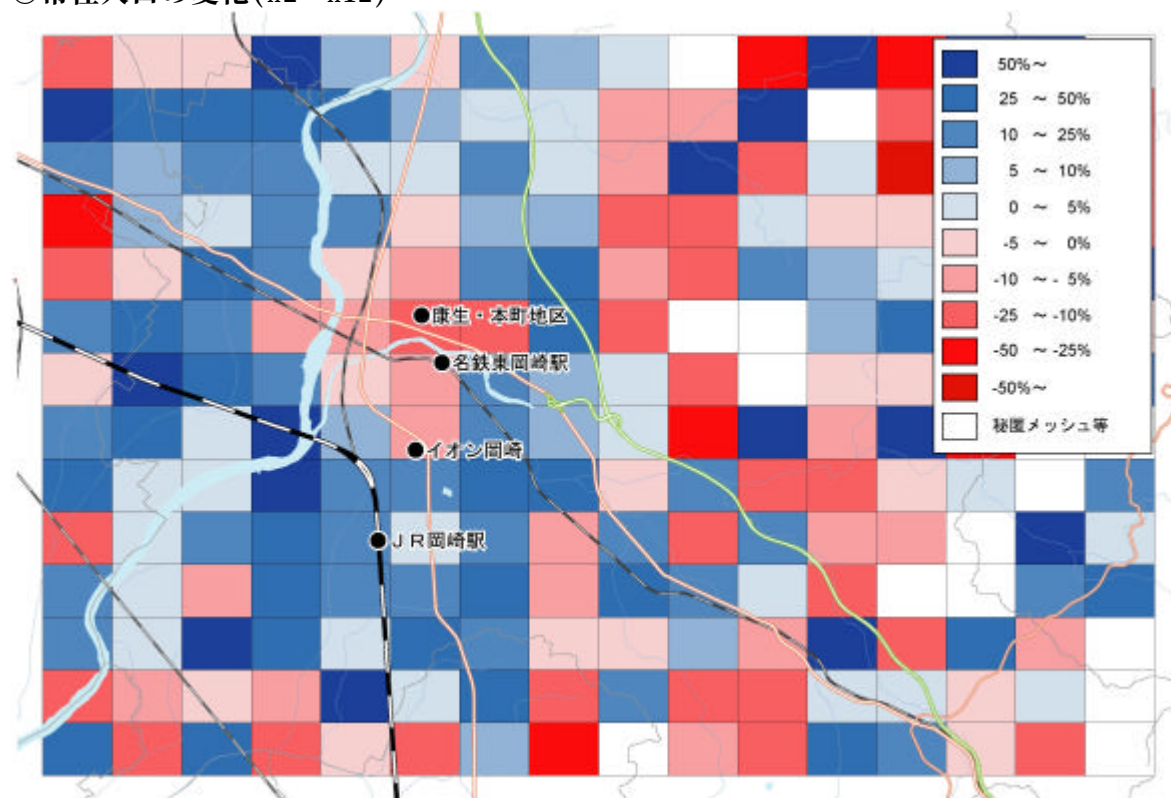
（９）メッシュデータでみた地区別変化

1 kmメッシュデータを用い、岡崎市内の常住人口及び小売業年間販売額の推移をみると、常住人口は康生・本町地区や名鉄東岡崎駅周辺の旧市街地で減少傾向にあるが、区画整理事業の進むＪＲ岡崎駅周辺では人口が増加傾向にある。

一方、小売業年間販売額の推移をみると、康生・本町地区や名鉄東岡崎駅周辺の中心市街地および区画整理事業により住宅地開発の進むＪＲ岡崎駅周辺で大きく減少しているものの、イオン岡崎周辺では大きく増加している。

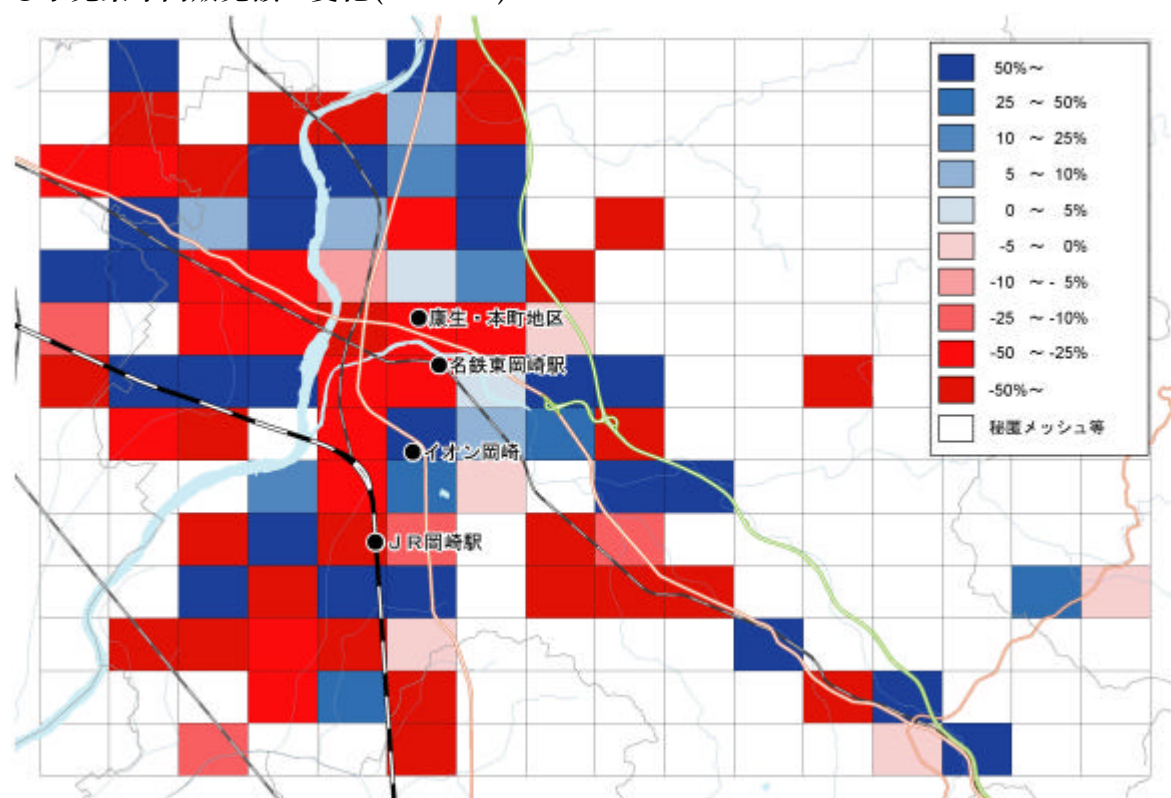
これより、康生・本町地区や名鉄東岡崎駅周辺の中心市街地は常住人口、小売業年間商品販売額ともに減少しており、メッシュデータからも同地区の衰退を読み取ることができる。

○常住人口の変化(H2→H12)



資料：国勢調査メッシュデータ

○小売業年間販売額の変化(H6→H14)



資料：商業統計メッシュデータ

岡崎２０２０ビジョン 策定経過

１．ビジョン策定委員会開催

- 第１回 平成１８年４月２５日
- 第２回 平成１８年５月２３日
- 第３回 平成１８年９月 ７日
- 第４回 平成１９年３月１２日

２．会員アンケート実施

平成１８年７月

３．部会ヒアリング開催

- ①機械金属部会 平成１８年７月１８日
- ②情報文化部会 平成１８年７月１８日
- ③交通部会 平成１８年７月１８日
- ④食品サービス部会 平成１８年７月１９日
- ⑤理財部会 平成１８年７月１９日
- ⑥商業部会 平成１８年７月２４日
- ⑦工業部会 平成１８年７月２６日
- ⑧建設部会 平成１８年７月２８日
- ⑨女性部 平成１８年７月２８日
- ⑩青年部 平成１８年７月２８日

４．ビジョン検討部会開催

- ①インフラ部会
 - 第１回 平成１８年１２月１５日
 - 第２回 平成１９年 １月２６日
 - 第３回 平成１９年 ２月２２日
- ②ものづくり検討部会
 - 第１回 平成１８年１２月１５日
 - 第２回 平成１９年 １月２６日
 - 第３回 平成１９年 ２月２２日
- ③まちづくり検討部会
 - 第１回 平成１８年１２月１８日
 - 第２回 平成１９年 １月２５日
 - 第３回 平成１９年 ２月２０日
- ④観光検討部会
 - 第１回 平成１８年１２月１８日
 - 第２回 平成１９年 １月２５日
 - 第３回 平成１９年 ２月２０日

岡崎２０２０ビジョン 策定委員会および検討部会委員名簿

【ビジョン策定委員会委員名簿（敬称略） ◎印が委員長】

伊藤 公正	岡崎商工会議所	会頭
服部 晃	岡崎商工会議所	副会頭
太田 進造	岡崎商工会議所	副会頭
古澤 武雄	岡崎商工会議所	副会頭
◎服部 良男	岡崎商工会議所	副会頭
田口 竜也	岡崎商工会議所	ひとづくり委員会委員長
松澤 武文	岡崎商工会議所	情報化委員会委員長
中村 重嗣	岡崎商工会議所	国際委員会委員長
小原 睦	岡崎商工会議所	産業基盤整備委員会委員長
岡田 邦義	岡崎商工会議所	広報委員会委員長
斎藤 眞澄	岡崎商工会議所	専務理事

＊アドバイザー

加藤 元	(株)三菱東京ＵＦＪ銀行 岡崎支社長
中丸 忠	三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング(株) 研究開発第２部長
鶴田 哲也	三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング(株) 研究開発第２部主任研究員
河合 修治	三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング(株) 研究開発第２部副主任研究員

【インフラ検討部会委員名簿（敬称略）】

朝日 啓夫	岡崎商工会議所	常議員
中根 義一	岡崎商工会議所	常議員
倉田 長	岡崎商工会議所	常議員
勝野 哲	岡崎商工会議所	常議員
鬼頭 誠	岡崎商工会議所	常議員
前山 敏昭	岡崎商工会議所	常議員
吉川 正敏	岡崎商工会議所	議員
白濱 智久	岡崎商工会議所	青年部
杉田 広喜	岡崎商工会議所	青年部
尾崎 邦泰	岡崎商工会議所	青年部
杉本 知治	岡崎商工会議所	青年部
稲垣 栄子	岡崎商工会議所	女性部
浅井 千子	岡崎商工会議所	女性部
深津 いすゞ	岡崎商工会議所	女性部

＊アドバイザー

片岡 喜幸	岡崎市ぬかた商工会	事務局長
杓名 航一	岡崎市六ツ美商工会	事務局長

【ものづくり検討部会委員名簿（敬称略）】

小塚 逸夫	岡崎商工会議所	常議員
野田 篤文	岡崎商工会議所	常議員
鳴海 忠孝	岡崎商工会議所	常議員
小嶋 稔	岡崎商工会議所	常議員
峰澤 彰宏	岡崎商工会議所	常議員
高木 啓至	岡崎商工会議所	議員
岡田 教志	岡崎商工会議所機械金属部会	岡崎鉄工会（協）理事長
三浦 正明	岡崎商工会議所機械金属部会	
菅沼 友章	岡崎商工会議所機械金属部会	
神谷 篤	岡崎商工会議所機械金属部会	
加藤 資章	岡崎商工会議所建設部会	
川上 喜也	岡崎商工会議所工業部会	
藤田 友之	岡崎商工会議所工業部会	
安福 孝	岡崎商工会議所工業部会	
花市 敬正	岡崎商工会議所情報文化部会	

＊アドバイザー

杓名 航一	岡崎市六ツ美商工会	事務局長
片岡 喜幸	岡崎市ぬかた商工会	事務局長

【まちづくり検討部会委員名簿（敬称略）】

佐谷 智	岡崎商工会議所	常議員
西浜 確	岡崎商工会議所	常議員
春井 宏幸	岡崎商工会議所	議員
白井 宏幸	岡崎商工会議所	議員
松原 広幸	岡崎商工会議所	議員
永田 龍寛	岡崎商工会議所青年部	
柴田 匡司	岡崎商工会議所青年部	
藤井 康正	岡崎商工会議所青年部	
甲村 優子	岡崎商工会議所女性部	
金森 晴子	岡崎商工会議所女性部	
金井 幸子	岡崎商工会議所女性部	
鈴木 延枝	岡崎商工会議所女性部	
豊田 年久	岡崎商工会議所交通部会	
今井 敏之	岡崎商工会議所情報文化部会	
服部 有也	岡崎商工会議所情報文化部会	

＊アドバイザー

杓名 航一	岡崎市六ツ美商工会	事務局長
片岡 喜幸	岡崎市ぬかた商工会	事務局長

【観光検討部会委員名簿（敬称略）】

浅岡 林平	岡崎商工会議所	常議員	
柴田 芳孝	岡崎商工会議所	常議員	
杉浦 節雄	岡崎商工会議所	常議員	
早川久右衛門	岡崎商工会議所	常議員	八丁味噌（協）理事長
浅井 信太郎	岡崎商工会議所	議員	八丁味噌（協）理事
竹内 桂子	岡崎商工会議所	議員	
磯部 亮次	岡崎商工会議所青年部		
長坂 光司	岡崎商工会議所青年部		
鈴木 由美子	岡崎商工会議所女性部		
山崎 かず江	岡崎商工会議所女性部		
鈴木 多代	岡崎商工会議所女性部		
丸田 喜代子	岡崎商工会議所女性部		
稲垣 光威	岡崎商工会議所工業部会		
細井 純雄	岡崎商工会議所交通部会		
金田 博良	岡崎商工会議所交通部会		
富田 武司	岡崎商工会議所商業部会		

＊アドバイザー

片岡 喜幸	岡崎市ぬかた商工会	事務局長
杓名 航一	岡崎市六ツ美商工会	事務局長

岡崎２０２０ビジョン

平成 19 年 3 月発行

制作発行 岡崎商工会議所

〒444-8611 愛知県岡崎市竜美南 1 丁目 2 番地

TEL 0564-53-6161

<http://www.okazakicci.or.jp>

制作協力 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社